

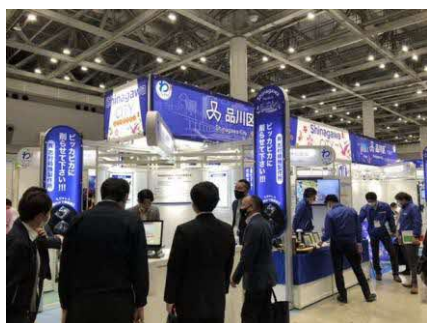
◆ 品川区 ◆

中小企業の景況

令和3年度第4・四半期

(令和4年1～3月)

目 次



機械要素技術展
(令和4年3月16日～18日開催)

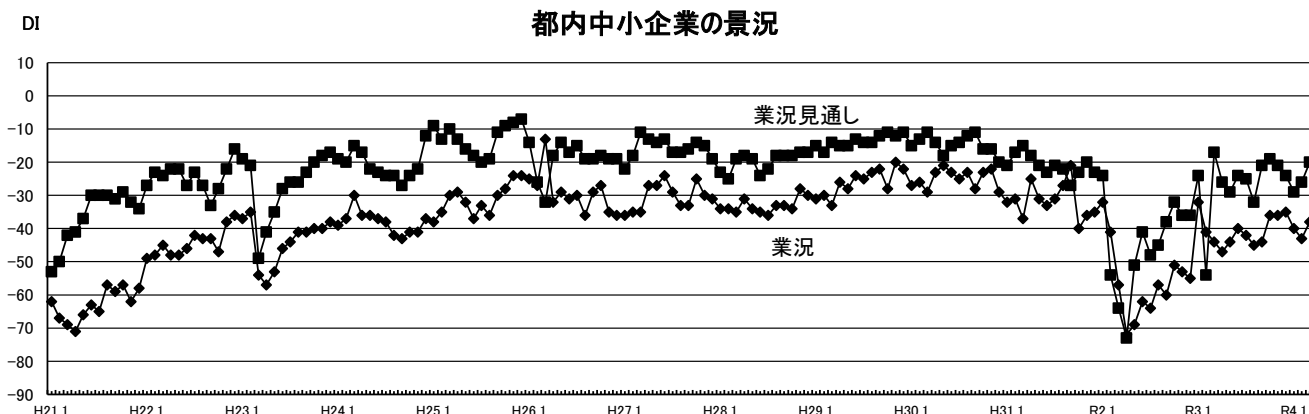
都内中小企業の景況 (令和4年1～3月期)	1
品川区内中小企業の景況 (令和4年1～3月期)	2
品川区の今期の特徴点	3
製 造 業	4
卸 売 業	9
小 売 業	13
サービ 業	18
建 設 業	22
日銀短観	26
東京都と品川区の企業倒産動向	26
特別調査「令和4年度の経営見通し」	27
中小企業景況調査 比較表・転記表	31

品川区地域振興部商業・ものづくり課

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ

都内中小企業の景況（令和4年1～3月期）

業況：全体でやや悪化。小売業でやや改善、卸売業は大幅に悪化。
見通し：すべての業種で大幅に改善の見通し。



業況DI（季節調整済み、「良い」企業割合-「悪い」企業割合）は▲38（前期は▲35）と、やや悪化した。今後3ヶ月間の見通しでは、今期比18ポイント増の▲20と、大幅に改善する見通し。

	前期 (R3.12)	今期 (R4.3)	増減	今後3ヶ月間の 見通し
製造業	▲32	▲32	0	▲21
卸売業	▲33	▲41	▲8	▲18
小売業	▲52	▲50	2	▲28
サービス業	▲27	▲31	▲4	▲15
全体	▲35	▲38	▲3	▲20

令和4年3月の都内中小企業の業況DIは、前期から3ポイント減の▲38と、やや悪化した。今後3ヶ月間の業況見通しDIでは、今期比18ポイント増の▲20と、大幅に改善する見通しとなっている。

都内中小企業の業況DIを業種別にみると、小売業（▲50）は2ポイント増とやや改善、製造業（▲32）は前期から変動がなかった。サービス業（▲31）は4ポイント減とやや悪化、卸売業（▲41）は8ポイント減と大幅に悪化した。

なお、仕入価格DI（仕入単価が「上昇」とした企業割合-「低下」とした企業割合）をみると、小売業（11）は15ポイント増、卸売業（33）は13ポイント増、製造業（51）は9ポイント増と、いずれも大幅に上昇した。

販売価格DI（販売単価が「上昇」とした企業割合-「低下」とした企業割合）をみると、小売業（▲2）は9ポイント増、卸売業（17）は8ポイント増と大幅に上昇した。製造業（3）は3ポイント増とやや上昇し、サービス業（▲5）は1ポイント増と前期並となった。

今後3ヶ月間の業況見通しDIを業種別にみると、全業種で大幅に改善すると見込まれている。卸売業（▲18）は23ポイント増、小売業（▲28）は22ポイント増と極端に改善し、サービス業（▲15）は16ポイント増、製造業（▲21）は11ポイント増と大幅に改善する見込みとなっている。

【注】

○D. I (Diffusion Indexの略)

D. I (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季節調整済）D. I

季節調整済とは、各期で季節的な変動を繰り返すD. Iを過去5年間まで遡り、季節的な変動を除去して加工したD. I値です。修正値ともいいます。

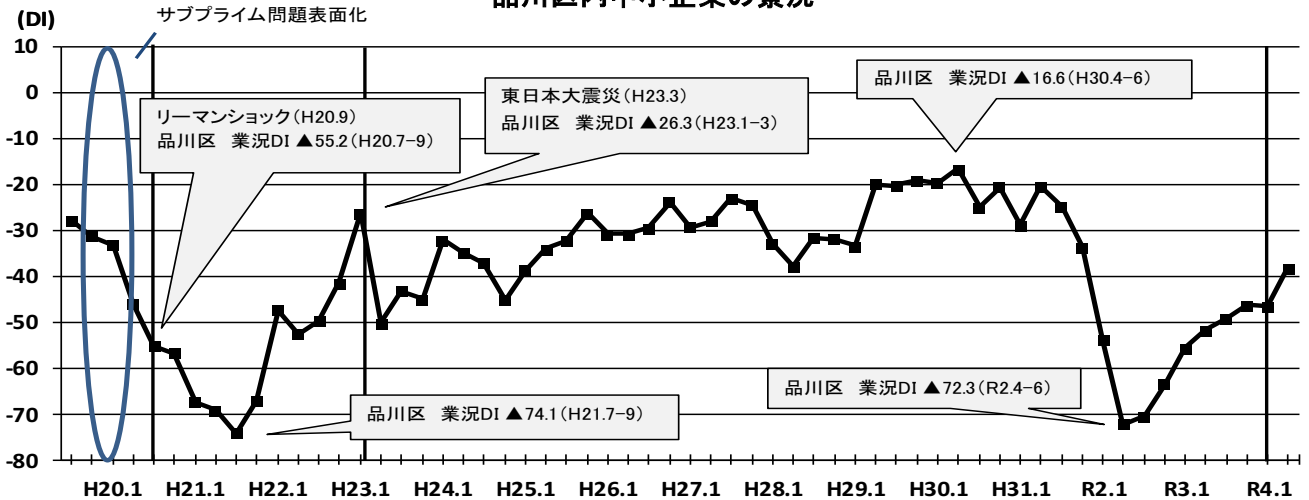
○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。

品川区内中小企業の景況（令和4年1～3月期）

業況：全体の景況感は前期並。製造業、サービス業で大幅に改善、小売業は極端に悪化。
見通し：小売業、卸売業で極端に改善、サービス業、製造業はやや悪化の見込み。

品川区内中小企業の景況



平成14年2月に始まった戦後最長の好況の影響からか、品川区の業況DIは平成18年10月頃までは緩やかながらも回復基調にあった。その後、サブプライム問題が表面化した平成19年7月頃より業況DIは低下が続き、リーマンショック発生から約1年後にあたる平成21年7月～9月期の業況DIは▲74と、最も悪化した。以後、平成23年3月の東日本大震災発生直後には再び悪化したものの、回復の軌跡をたどっていたが、平成31年4月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく悪化し、令和2年4月～6月期の業況DIは▲72となった。

今期（令和4年1～3月期）の業況DIは▲47と前期より1ポイント減少となり、令和2年4月～6月期以降続いた改善傾向に歯止めがかかった。

品川区内中小企業の業況DI

	前々期 (R3. 7～9)	前期 (R3. 10～12)	今期 (R4. 1～3)	今後3ヶ月間 の見通し
製造業	▲45	▲61	▲47	▲49
卸売業	▲49	▲57	▲59	▲38
小売業	▲66	▲44	▲72	▲37
サービス業	▲46	▲35	▲22	▲26
建設業	▲44	▲36	▲38	▲38
全体	▲49	▲46	▲47	▲38

※小数点第1位を四捨五入した数値

《最近の景況動向》

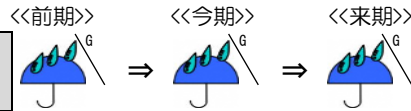
今期の品川区内中小企業全体の業況は、前期並となった。来期（今後3ヶ月間の見通し）においては、かなり改善する見通しとなっている。業種別にみると、今期は製造業とサービス業で大幅に改善した。卸売業と建設業ではやや悪化し、小売業では極端に悪化した。来期は小売業と卸売業で極端に改善、建設業では今期並となり、製造業とサービス業ではやや悪化する見込みである。

経済産業省が取りまとめている鉱工業指数においては、3月（速報）は生産、出荷は上昇、在庫、在庫率は低下となった。製造工業生産予測調査では、4月は前月比5.8%の上昇、5月は0.8%の低下を予測している。なお、総務省統計局が取りまとめている3月の消費者物価指数（2020年=100）は101.1（中分類総合指数）となっており、前月比（季節調整値）で0.4%上昇した。

品川区の今期の特徴点

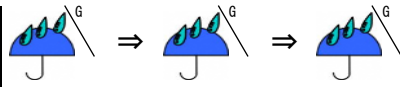
景気予報						
大きく上昇	上 昇	やや上昇	横 這い	やや下降	下 降	大きく下降

全 体



業況は前期並となった。売上額は前期並、収益は減少幅がやや拡大した。販売価格は下降傾向がかなり弱まり、仕入価格は上昇傾向がやや強まった。資金繰りは厳しさがやや和らいだ。

製 造 業



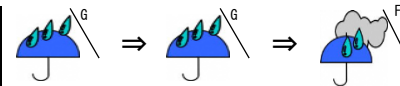
業況はかなり改善した。売上額、収益はともに減少幅がかなり縮小した。販売価格は下降傾向がかなり弱まり、原材料価格は上昇傾向がかなり弱まった。在庫は不足感がやや改善した。資金繰りは厳しさがやや和らいだ。

卸 売 業



業況は低調感がやや強まった。売上額、収益はともに減少幅がやや拡大した。販売価格、仕入価格はともに上昇傾向がやや強まった。在庫は過剰感がやや改善した。資金繰りは厳しさがかなり増した。

小 売 業



業況は低調感が極端に強まった。売上額、収益はともに減少幅が極端に拡大した。販売価格は上昇に転じ、仕入価格は上昇傾向がかなり強まった。在庫は過剰感がかなり改善した。資金繰りは厳しさがやや和らいだ。

サ ー ビ ス 業



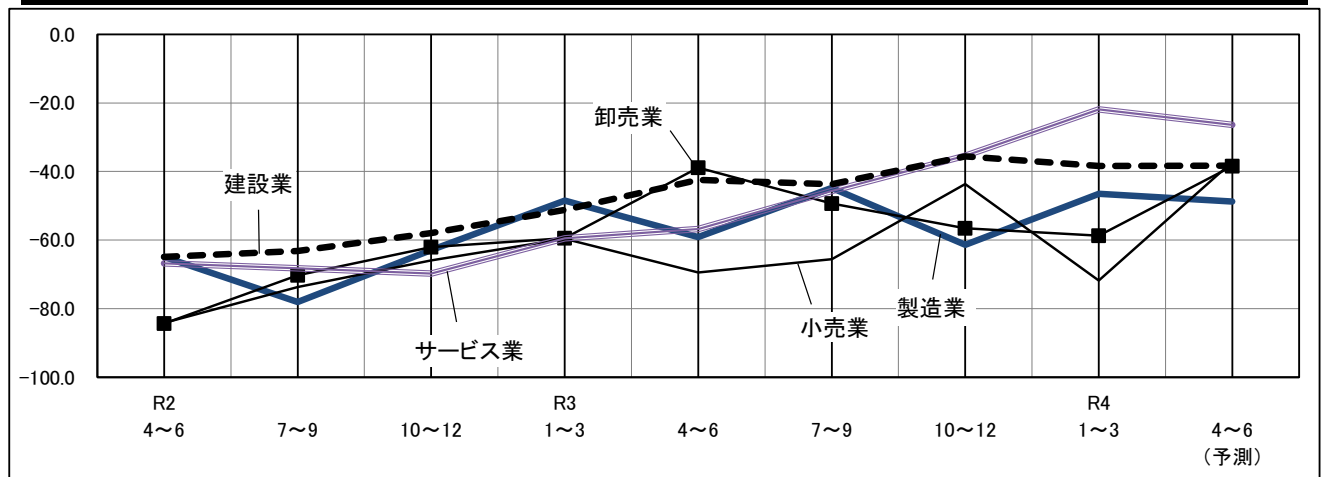
業況はかなり改善した。売上額、収益はともに減少幅がかなり縮小した。料金価格は上昇に転じ、材料価格は上昇傾向がかなり強まった。資金繰りは厳しさがかなり和らいだ。

建 設 業

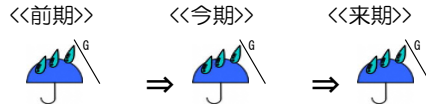


業況は低調感がやや強まった。売上額、施工高はともに減少幅がかなり拡大した。収益は前期並となった。請負価格は下降傾向がやや弱まり、材料価格は上昇傾向がやや強まった。在庫は過剰に転じた。資金繰りは前期並となった。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測



製造業



() は、前期→今期

売上・収益の動向と業況判断

業況 (△61→△47) はかなり改善した。売上額 (△50→△35)、収益 (△46→△39) はともに減少幅がかなり縮小した。

なお、全都と比較した当区の業況は 15 ポイント下回っている。

価格・在庫動向

販売価格 (△12→△2) は下降傾向がかなり弱まり、原材料価格 (71→58) は上昇傾向がかなり弱まった。在庫 (△3→△1) は不足感がやや改善した。

資金繰り・借入金動向

資金繰り (△39→△31) は厳しさがかなり和らぎ、借入難易度 (△3→2) は好転した。今期借入れをした企業は 27% で前期の 24% から 3 ポイント増加した。

経営上の問題点・重点経営施策

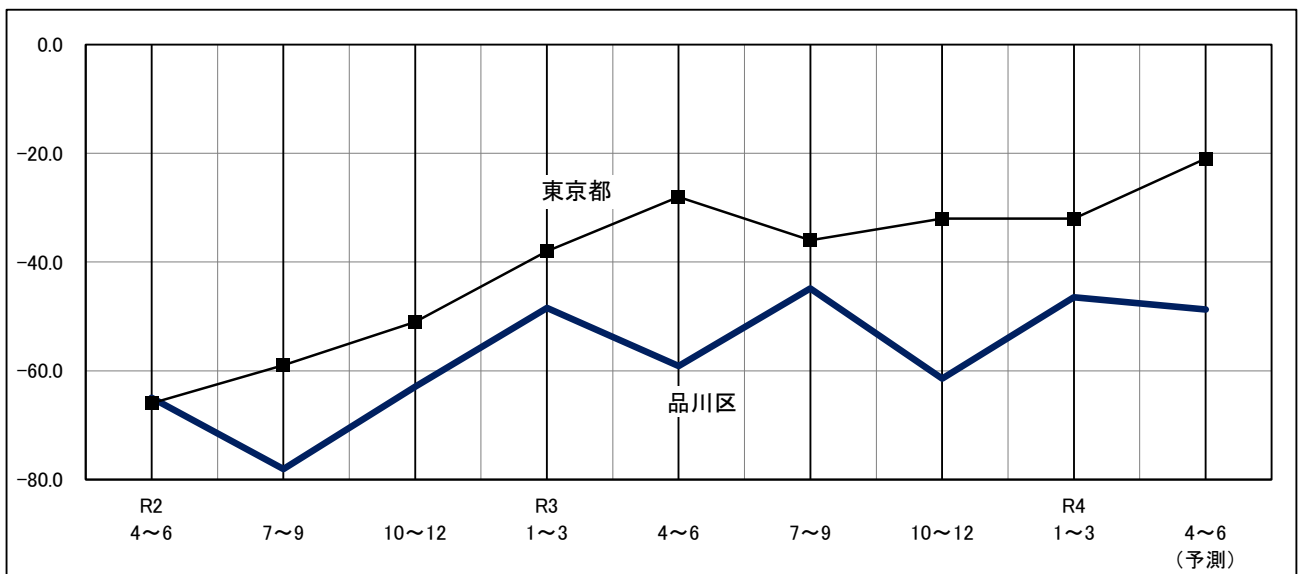
経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」が 68%、2 位は「原材料高」が 52%、3 位は「仕入先からの値上げ要請」が 25% となった。2 位の「原材料高」は、令和 2 年 4~6 月期以降で最も高い割合となり、2 期連続で 5 割以上となった。(34 ページ参照)

重点経営施策は、1 位は「経費を節減する」が 50%、2 位は「販路を広げる」が 48%、3 位は「情報力を強化する」が 23% となった。前期 6 位だった「情報力を強化する」は、今期 3 位と順位を上げた。

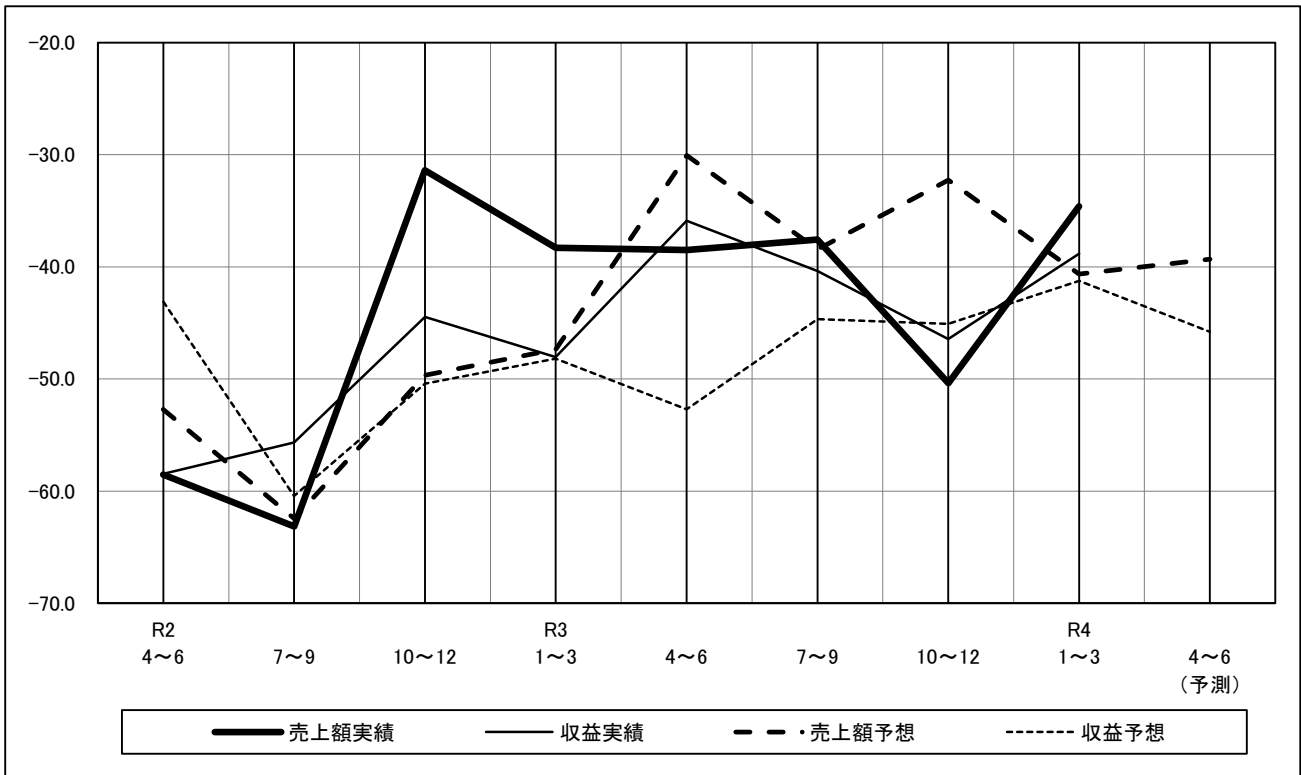
来期の見通し

業況 (△47→△49) は低調感がやや強まる見込み。売上額は減少幅がやや拡大し、収益は減少幅がかなり拡大すると予想されている。

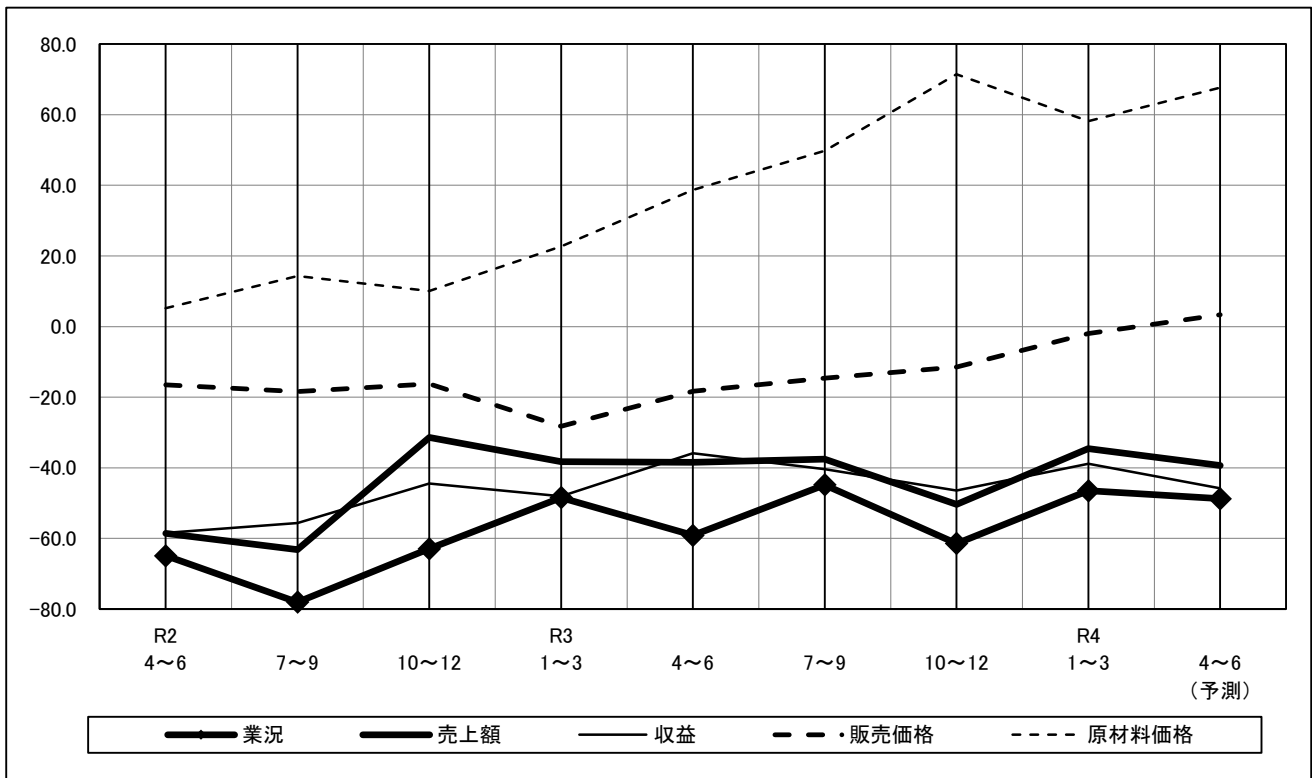
〈製造業〉 品川区と東京都の業況の動き (実績) と来期の予測



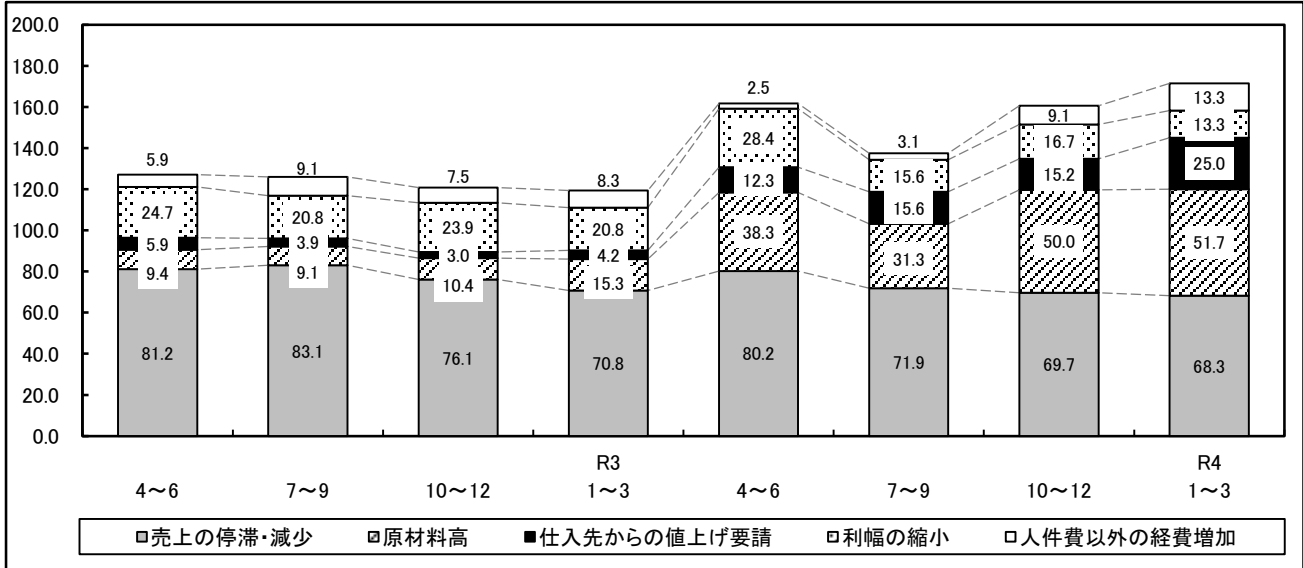
〈製造業〉 売上額・収益の実績と予想の推移



〈製造業〉 業況と売上額、収益、販売価格、原材料価格の動き（実績）と来期の予測

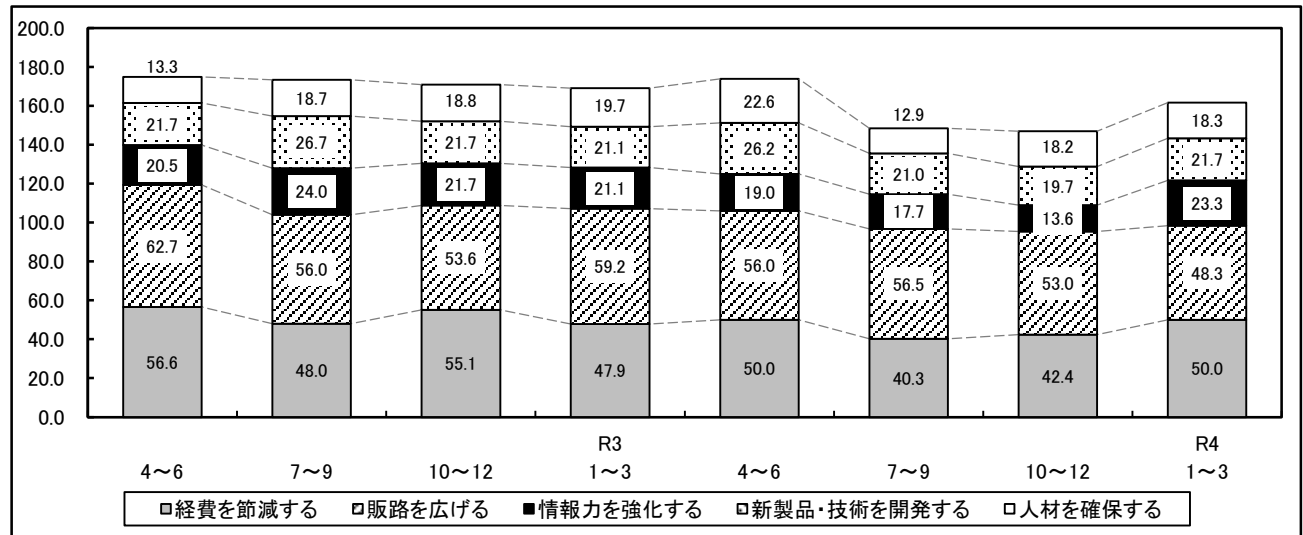


〈製造業〉 経営上の問題点 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	売上停滞・減少	80.2 %	売上停滞・減少	71.9 %	売上停滞・減少	69.7 %	売上停滞・減少	68.3 %
第2位	原材料高	38.3 %	原材料高	31.3 %	原材料高	50.0 %	原材料高	51.7 %
第3位	利幅の縮小	28.4 %	利幅の縮小 仕入先からの値上げ要請 工場・機械の狭小・老朽化	15.6 % 15.6 % 15.6 %	工場・機械の狭小・老朽化	28.8 %	仕入先からの値上げ要請	25.0 %
第4位	工場・機械の狭小・老朽化	18.5 %	人手不足 同業者間の競争の激化 人件費の増加	9.4 % 9.4 % 9.4 %	利幅の縮小	16.7 %	利幅の縮小 人件費以外の経費増加 工場・機械の狭小・老朽化	13.3 % 13.3 % 13.3 %
第5位	仕入先からの値上げ要請	12.3 %	合理化の不足	7.8 %	仕入先からの値上げ要請	15.2 %	人手不足	11.7 %

〈製造業〉 重点経営施策 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	販路を広げる	56.0 %	販路を広げる	56.5 %	販路を広げる	53.0 %	経費を節減する	50.0 %
第2位	経費を節減する	50.0 %	経費を節減する	40.3 %	経費を節減する	42.4 %	販路を広げる	48.3 %
第3位	新製品・技術を開発する	26.2 %	新製品・技術を開発する	21.0 %	新製品・技術を開発する	19.7 %	情報力を強化する	23.3 %
第4位	人材を確保する	22.6 %	情報力を強化する	17.7 %	人材を確保する	18.2 %	新製品・技術を開発する	21.7 %
第5位	情報力を強化する	19.0 %	人材を確保する 教育訓練を強化する	12.9 % 12.9 %	提携先を見つめる	15.2 %	人材を確保する	18.3 %

(1) 電気機械器具

業況(△57→△37)は極端に改善した。売上額(△26→△23)は減少幅がやや縮小し、収益(△29→△23)は減少幅がかなり縮小した。販売価格(13→15)は上昇傾向がやや強まり、原材料価格(61→72)は上昇傾向がかなり強まった。資金繰り(△33→△25)は厳しさがかなり和らいだ。来期の業況は低調感がかなり強まると予想されている。

(2) 一般機械器具・金型

業況(△29→△42)は低調感がかなり強まった。売上額(△18→△17)は前期並となり、収益(△19→△28)は減少幅がかなり拡大した。販売価格(△5→14)は上昇に転じ、原材料価格(69→73)は上昇傾向がやや強まった。資金繰り(△23→△19)は厳しさがやや和らいだ。来期の業況は低調感がやや強まると予想されている。

(3) 出版・印刷・同関連産業

業況(△79→△53)は極端に改善した。売上額(△66→△47)は減少幅がかなり縮小し、収益(△53→△48)は減少幅がやや縮小した。販売価格(△21→△10)は下降傾向がかなり弱まり、原材料価格(59→25)は上昇傾向が極端に弱まった。資金繰り(△47→△45)は厳しさがやや和らいだ。来期の業況はやや改善すると予想されている。

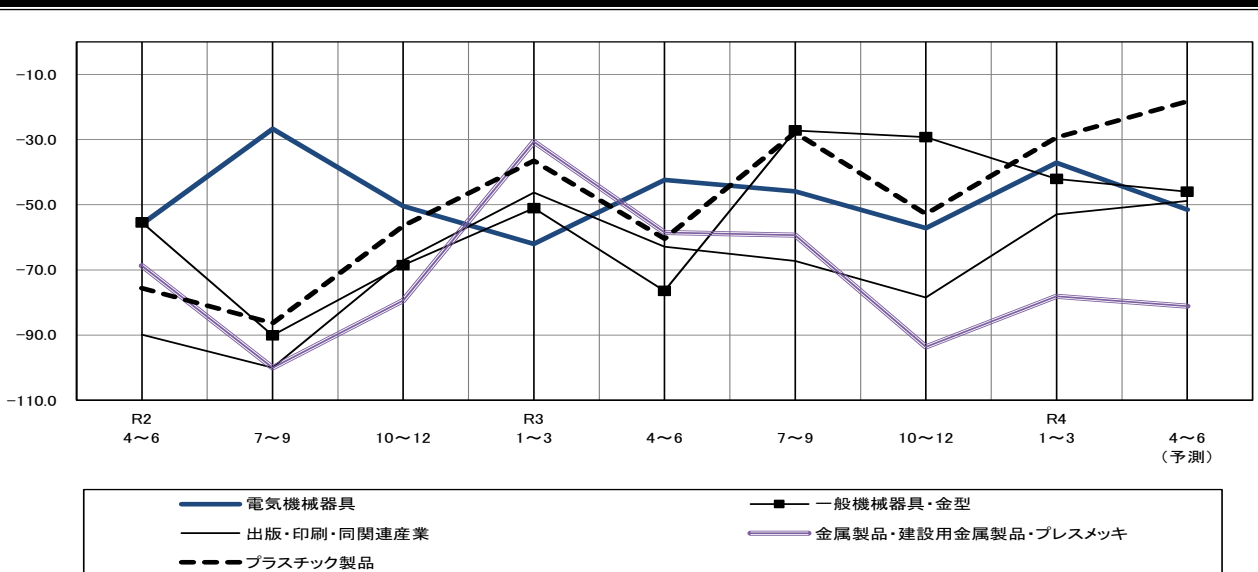
(4) 金属製品・建設用金属製品・プレスメッキ

業況(△94→△78)はかなり改善した。売上額(△94→△100)、収益(△88→△100)はともに減少幅がかなり拡大した。販売価格(△20→△32)は下降傾向がかなり強まり、原材料価格(68→30)は上昇傾向が極端に弱まった。資金繰り(△71→△80)は厳しさがかなり増した。来期の業況は低調感がやや強まると予想されている。

(5) プラスチック製品

業況(△53→△29)は極端に改善した。売上額(△54→1)は増加に転じ、収益(△48→△6)は減少幅が極端に縮小した。販売価格(△16→△18)は下降傾向がやや強まり、原材料価格(100→72)は上昇傾向が極端に弱まった。資金繰り(△19→△15)は厳しさがやや和らいだ。来期の業況はかなり改善すると予想されている。

〈製造業〉業種中分類別の業況の動き(実績)と来期の予測



製造業 業種別コメント

<電気機械器具>

1. 銅建値が史上最高値で推移しているため、減収減益が続いている。電気部品が納期末定のもが多く、生産不可能なものがある。
2. 大企業の進出により売上は減少傾向である。
3. 円安で輸入資材が実質値上がりしている。今後外注作業を段階的に内製化。
4. 断続的に原材料、購入部品の値上要求があり、部材の入手難と相まって値上をそのまま飲まざるをえない。
5. 原材料の不足が深刻。

<一般機械器具・金型>

1. 世界情勢の悪化により、エネルギー価格の高騰や物流の混乱等、世界経済の先行きに不透明感がある。
2. ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響もあり客先の設備投資が少し緩やかであったこともあり、全体的に横ばいもしくは減少傾向であった。現在もその傾向は続いていて、さらにロシア・ウクライナ情勢の影響がどう影響するかは不安でしかない。
3. 原材料の価格高騰。
4. 新型コロナウイルス感染症の影響で営業活動が制限されたこと。半導体関連、電気、電子部品の納期遅延による売上減少。入手目処が立たない。
5. 去年に続き、今年度も売上が良く増益につながりました。一時的に材料（仕入）が入らず、納期を伸ばす事はありません。
6. 新型コロナウイルス感染症の影響で材料の入荷が不足。
7. 引き合いは増えているが、品物がタイトなため仕入れ価格が上昇している。
8. 工作機械の入れ替えをしたいが、工場が狭小のため、大型工作機械を入れることができない。地の利がよい品川区内での移転を希望しているが、工場物件がないため困っている。
9. 人材不足。エンジニアの国内人材が不足しており外国人材に頼らざるを得ない状況。
10. 需要が増えているが生産能力が上がらない。
11. 技術者の確保が難しい。

<出版・印刷・同関連産業>

1. 新型コロナウイルス感染症の影響で仕事が大幅に減少、売上が前々年の30%になっている。助成金、支援金でなんとか持ちこたえてはいるが今年（令和4年）もこのままなら廃業する予定。
2. デパート、イベントの休業、中止によりペーパーレス化し、物が売れないので予算が取れず、シール、ラベルの予算にまで回ってきていない状態。
3. 需要が減り、減収減益が続いている。
4. 印刷業界の不況、紙媒体への印刷減少。新規開拓しても売上が伸びない。

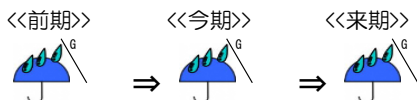
<金属製品・建設用金属製品・プレスメッキ>

1. 商品の値上がりが多くなっている。
2. 材料価格の上昇によりコロナ禍前の売上に近い売上に戻ってきてはいるが、利益が減少している。
3. 新型コロナウイルス感染症の影響、ウクライナ情勢でどうなっていくか、まったく解らない。
4. 現在値上交渉中。ただ原材料が上昇中なので近いうちに再交渉が必要となる。
5. 受注先の注文が半分以下になり、仕事が減り大変です。新型コロナウイルス感染症の影響のためイベントがなくなり、それが2年続き、今年もないようなので会社を続けられるかわかりません。
6. 受注減。

<プラスチック製品>

1. 需要が増え、増収増益が続いている。

卸 売 業



() は、前期→今期

売上・収益の動向と業況判断

業況 ($\Delta 57 \rightarrow \Delta 59$) は低調感がやや強まった。売上額 ($\Delta 40 \rightarrow \Delta 43$)、収益 ($\Delta 42 \rightarrow \Delta 46$) はともに減少幅がやや拡大した。

なお、全都と比較した当区の業況は 18 ポイント下回っている。

価格・在庫動向

販売価格 (11→15)、仕入価格 (54→58) はともに上昇傾向がやや強まった。在庫 (9→6) は過剰感がやや改善した。

資金繰り・借入金動向

資金繰り ($\Delta 32 \rightarrow \Delta 38$) は厳しさがかなり増し、借入難易度 ($\Delta 10 \rightarrow \Delta 11$) は前期並となった。今期借入れをした企業は 31% で前期の 34% から 3 ポイント減少した。

経営上の問題点・重点経営施策

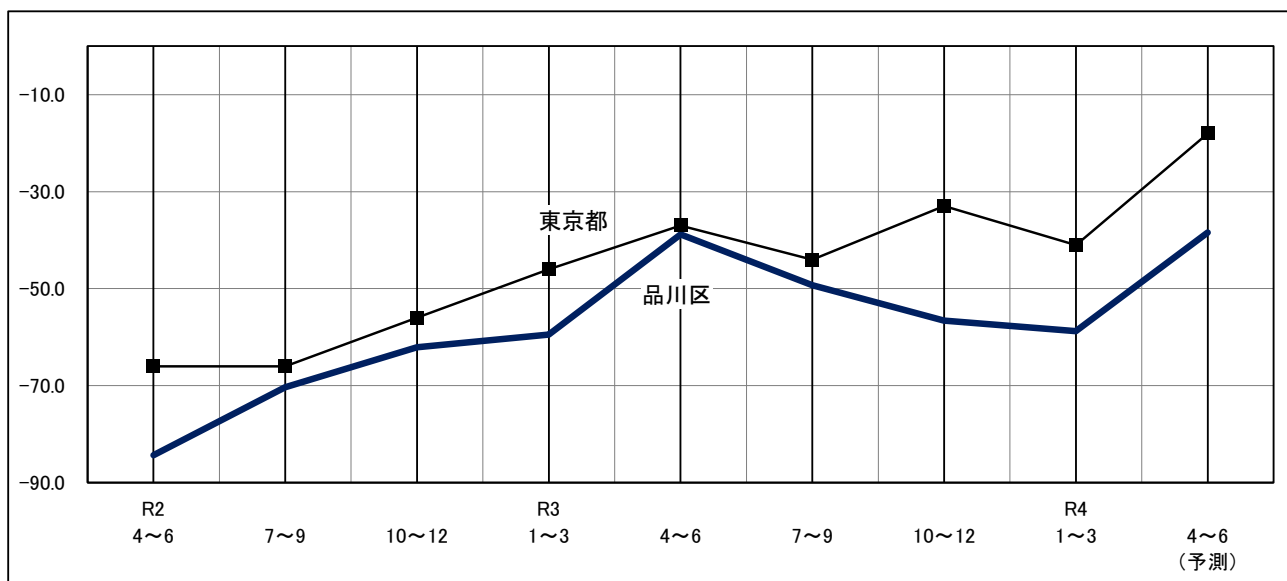
経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」が 68%、2位は「仕入先からの値上げ要請」が 37%、3位は「利幅の縮小」が 30% となった。前期 3 位だった「仕入先からの値上げ要請」は、今期 2 位と順位を上げた。

重点経営施策は、1位は「販路を広げる」が 65%、2位は「経費を節減する」が 41%、3位は「情報力を強化する」が 27% となった。前期と比べ、上位 3 項目に変動はなかった。

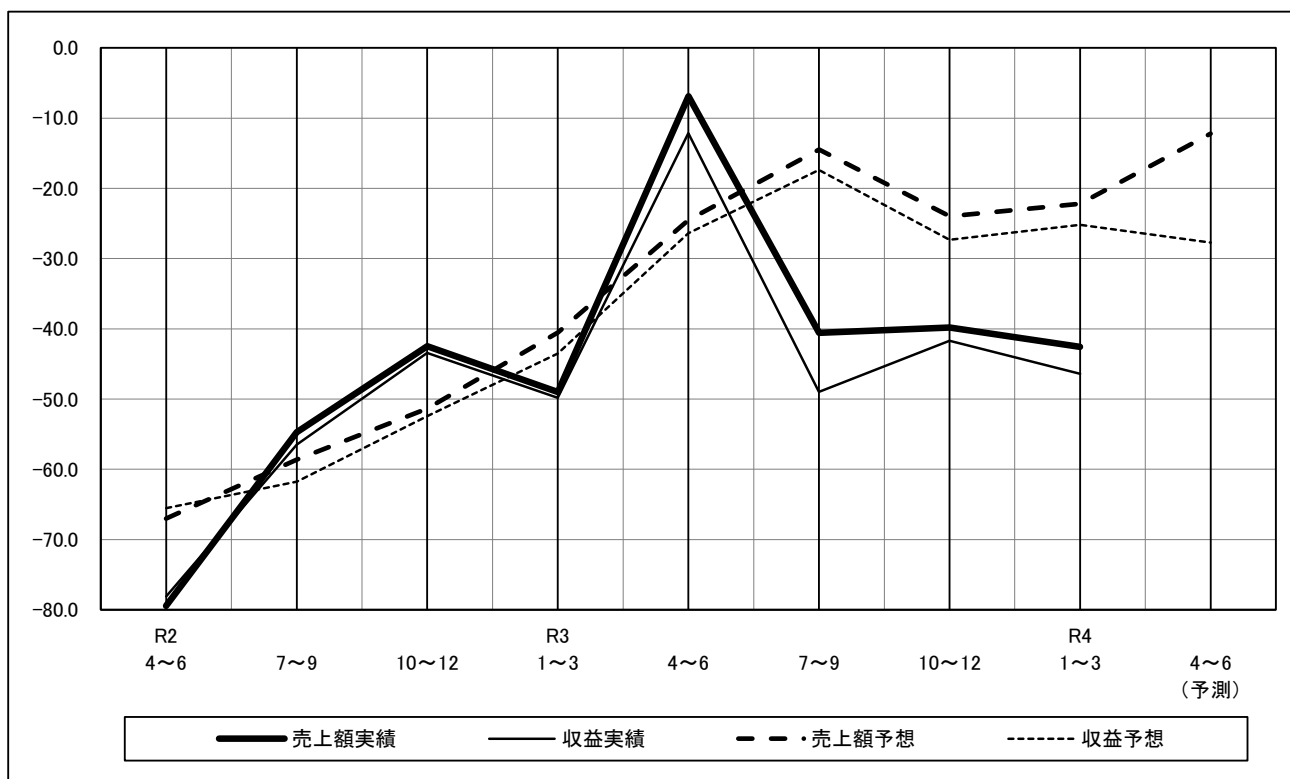
来期の見通し

業況 ($\Delta 59 \rightarrow \Delta 38$) は極端に改善する見込み。売上額は減少幅が極端に縮小し、収益は減少幅がかなり縮小すると予想されている。

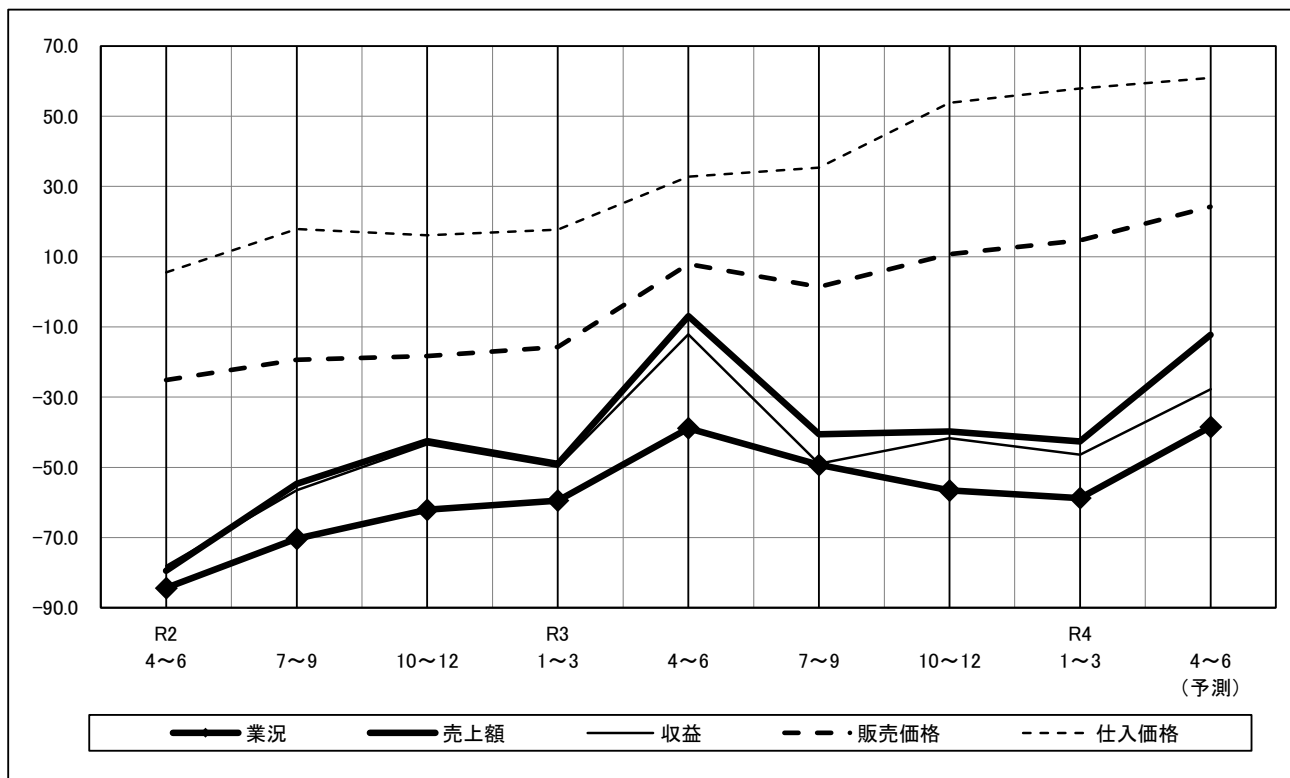
〈卸売業〉 品川区と東京都の業況の動き（実績）と来期の予測



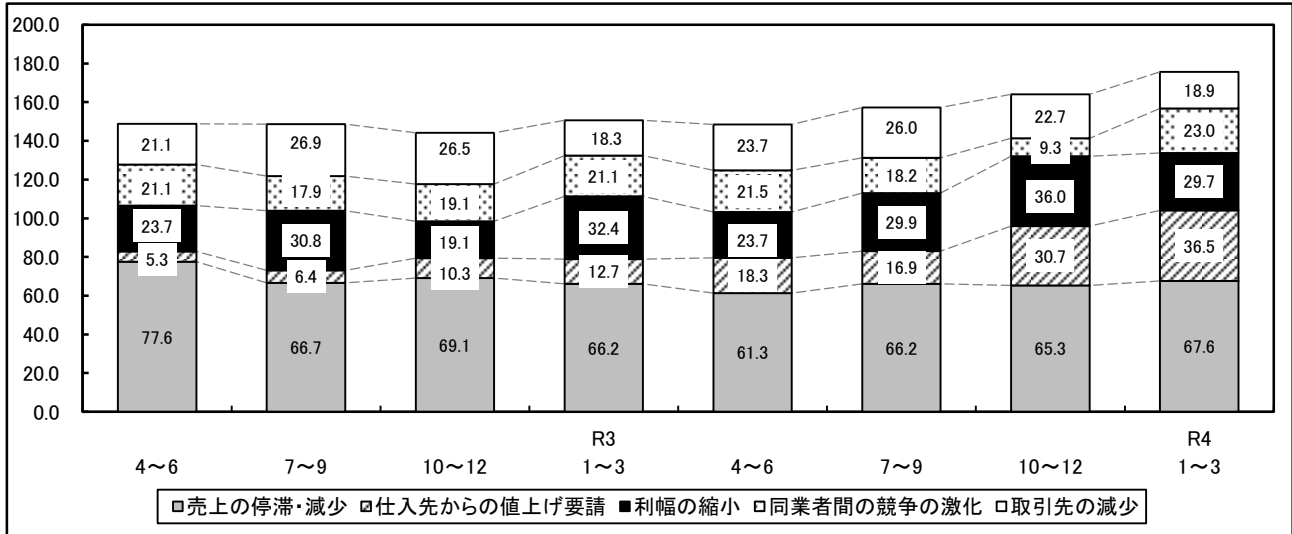
〈卸売業〉 売上額・収益の実績と予想の推移



〈卸売業〉 業況と売上額、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測

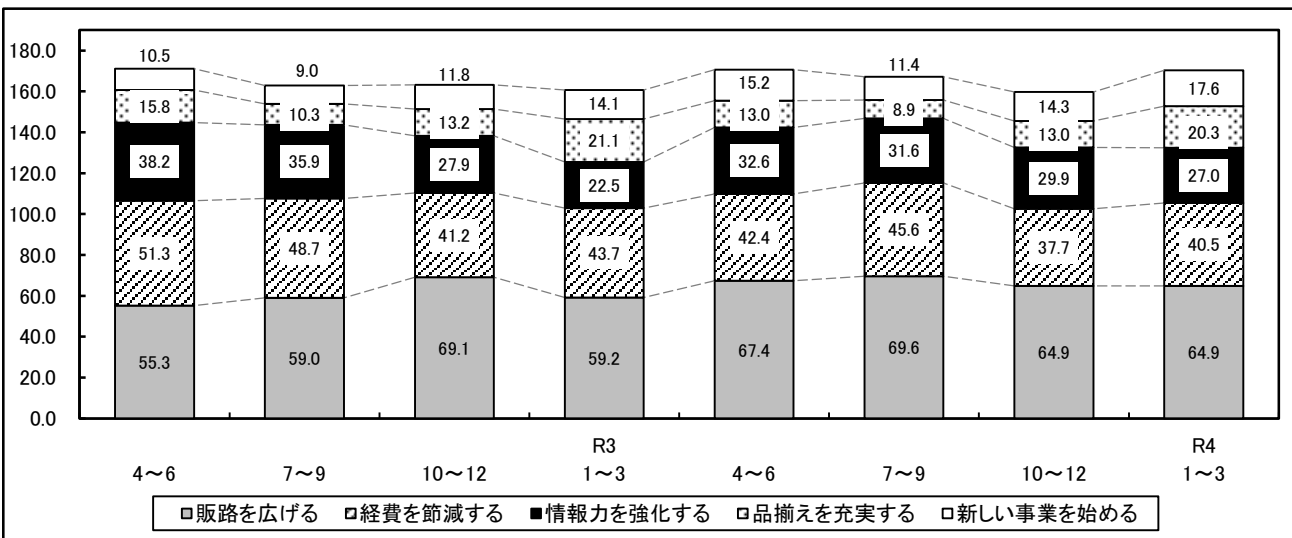


〈卸売業〉 経営上の問題点 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	売上の停滞・減少	61.3 %	売上の停滞・減少	66.2 %	売上の停滞・減少	65.3 %	売上の停滞・減少	67.6 %
第2位	利幅の縮小	23.7 %	利幅の縮小	29.9 %	利幅の縮小	36.0 %	仕入先からの値上げ要請	36.5 %
	取引先の減少	23.7 %						
第3位	同業者間の競争の激化	21.5 %	取引先の減少	26.0 %	仕入先からの値上げ要請	30.7 %	利幅の縮小	29.7 %
第4位	仕入先からの値上げ要請	18.3 %	同業者間の競争の激化	18.2 %	為替レートの変動	25.3 %	同業者間の競争の激化	23.0 %
第5位	為替レートの変動	16.1 %	仕入先からの値上げ要請	16.9 %	取引先の減少	22.7 %	取引先の減少	18.9 %
							為替レートの変動	18.9 %

〈卸売業〉 重点経営施策 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	販路を広げる	67.4 %	販路を広げる	69.6 %	販路を広げる	64.9 %	販路を広げる	64.9 %
第2位	経費を節減する	42.4 %	経費を節減する	45.6 %	経費を節減する	37.7 %	経費を節減する	40.5 %
第3位	情報力を強化する	32.6 %	情報力を強化する	31.6 %	情報力を強化する	29.9 %	情報力を強化する	27.0 %
第4位	人材を確保する	22.8 %	人材を確保する	12.7 %	人材を確保する	23.4 %	品揃えを充実する	20.3 %
第5位	新しい事業を始める	15.2 %	新しい事業を始める	11.4 %	新しい事業を始める	14.3 %	新しい事業を始める	17.6 %
							人材を確保する	17.6 %

卸売業 業種別コメント

1. 新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢により経済状況が不安定であり、難しい状況が続いている。
2. 5月より30%値上げしないと利益が出せないため、売上は減少する。
3. 海外生産100%のため円安による原価アップにより大きく利益が減少している。
4. 昨年より売上・収益ともに低調な推移となっており、新型コロナウイルス感染症による影響はまだまだ継続している。今後多少新型コロナウイルス感染症の収束が見られてもここ数年の新型コロナウイルス感染症によるライフスタイルの変化はコロナ前の状況に完全に戻る事は考えにくくまだまだ厳しい状況が続くと思われる。
5. まん防の期間、売上の大幅減少で苦しい。2020年、2021年と借入をしているので、これ以上の借入は返済できる自信がないので見合わせている。今後の状況によってはどうなるか不安しかない。借入返済の減額等をしてもらえるなら仕事は続けていける。
6. 円安でコスト上昇のため利益率が減少。新型コロナウイルス感染症の影響で飲食店、旅行業界等の停滞による販売減少。
7. 飲食店への時短や酒類提供の制限等で、ワインの売上が落ち込み、回復の傾向が見えない。
8. 飲食店のお客様が多いので、新型コロナウイルス感染症の影響の収束が望ましいです。
9. 物価上昇により、消費者の買い控え。
10. 新型コロナウイルス感染症の影響から売上減少。木材資材の高騰と品不足が続き、在庫の安定化が難しい。ウクライナ情勢も気になる。
11. 現状は良い方向に向いているが、今後原材料がかなり高くなる事が予想できるため、全体的需要が低下するようになるのではと思われる。
12. 商品の仕入が上がり、売上単価が上がってきている。
13. 販売先各社が新型コロナウイルス感染症の影響により生産激減し、収益悪化が続いている。
14. 新型コロナウイルス感染症の影響大。
15. 一時的に1月に景況が良くなると思えたが、ロシア・ウクライナ危機の後、全く不透明。原材料の高騰が経営を圧迫する。
16. 長引く新型コロナウイルス感染症の影響により売上の低迷が続いていたが、大幅な円安も加わり特殊鋼・鋼材価格の上昇に見舞われている。仕入価格の上昇もそのまま販売価格に反映させることが難しいため、厳しい状況が続いている。
17. 例年、冬場の業績は良く夏場は悪いが、今期の冬場は1~2割程良かった。
18. 仕入先からの値上要請が相次いでいるが、販売価格に即反映出来ないため収益が悪化する。
19. 再生可能エネルギー（地熱発電）開発向けの需要が増加している。
20. 受注は比較的安定しているが、世界的資材（半導体等）不足の影響で注文品の納期が異常に長くなっており、一部キャンセルの発生や、納品できず売上があげられない状況が続いている。
21. CO2削減の影響で金属材料の高騰のため、仕入価格上昇。そっくり転嫁できない苦しさがある。
22. 生産を海外工場に依存しているため、為替レートの変動が問題である。
23. 円安のため海外製品の仕入コストが上昇。
24. 増収増益となっているが、下期は受注が減少。
25. 新型コロナウイルス感染症の影響を受け売上減少。粗利上昇で多少の利益アップ。
26. 思っている以上に営業ができず、苦勞している。
27. 車輛の購入予定に狂いが生じている。よい人材の採用がなかなか進まない。
28. 原材料、物流費、人件費などの高騰に伴い値上業務が多くなってしまい、エンドユーザーへの営業時間が減少してしまっている。
29. 石油、原材料の世界的な高騰による仕入製品の値上げ、円安、ユーロ高による仕入額の増加、ウクライナ問題による航空運賃の値上がりの三重苦に悩まされている。製品販売価格に転嫁するも、市場を見ると値上し難い。
30. 商品卸先であるエステティックサロンの来客数の影響が商品流通につながっていることが要因。来客数の増加を期待し、サロンの活性化に向けた活動をしていく。
31. 取引先が安定している。
32. 様々な製品の価格改定依頼が仕入先からきており、対応に苦慮している。
33. 仕入材料の値上りが続いており、収益を縮小させている。なかなか転嫁できていない現況。
34. 部品が遅れているために納入ができず、売上が減っている。また材料高のため材料納期遅れが出ており、製造が減少している。
35. 主要取引先から安定して受注を確保。
36. 特定の製品のコモディティ化に伴い競争の激化が生じ、利幅と売上が減少傾向である。

小 売 業



() は、前期→今期

売上・収益の動向と業況判断

業況(△44→△72)は低調感が極端に強まった。売上額(△27→△50)、収益(△28→△57)はともに減少幅が極端に拡大した。

なお、全都と比較した当区の業況は22ポイント上回っている。

価格・在庫動向

販売価格(△1→9)は上昇に転じ、仕入価格(51→65)は上昇傾向がかなり強まった。在庫(22→4)は過剰感がかなり改善した。

資金繰り・借入金動向

資金繰り(△30→△25)は厳しさがやや和らぎ、借入難易度(△8→△16)はかなり悪化した。今期借入れをした企業は22%で前期の54%から32ポイント減少した。

経営上の問題点・重点経営施策

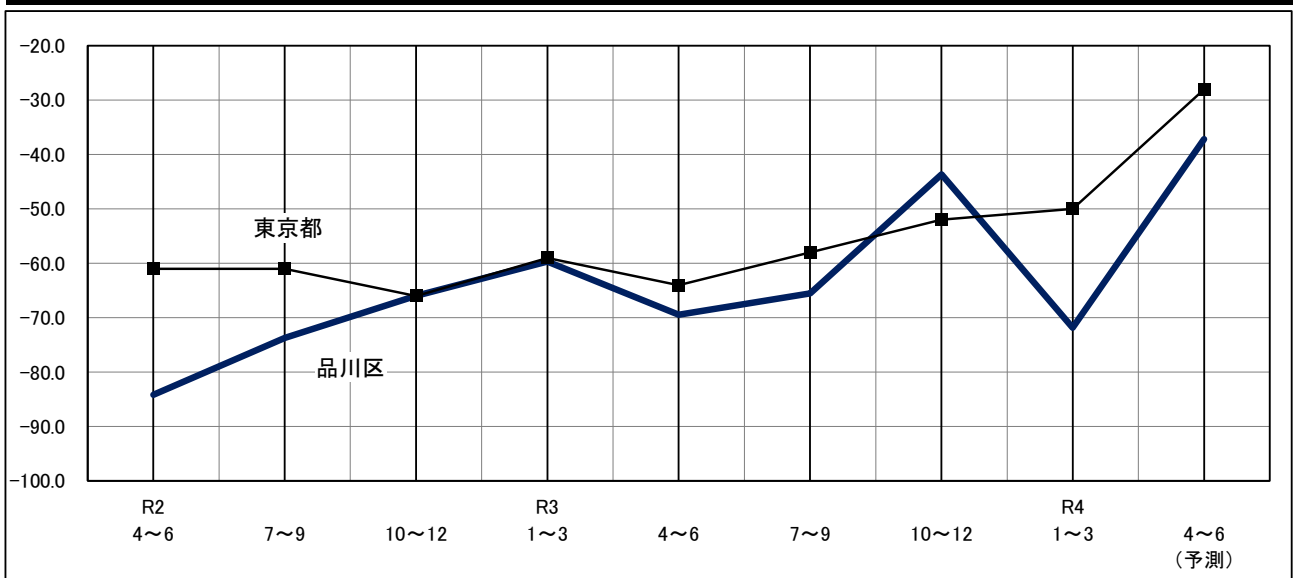
経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」が86%、2位は「仕入先からの値上げ要請」が39%、3位は「人手不足」が28%となった。3位の「人手不足」は、前期から順位を上げ、令和2年4~6月期以降で最も高い割合となっている。(38ページ参照)

重点経営施策は、1位は「経費を節減する」が65%、2位は「品揃えを改善する」が38%、3位は「人材を確保する」が30%となった。2位の「品揃えを改善する」と3位の「人材を確保する」は、令和2年4~6月期以降で最も高い割合となっている。(38ページ参照)

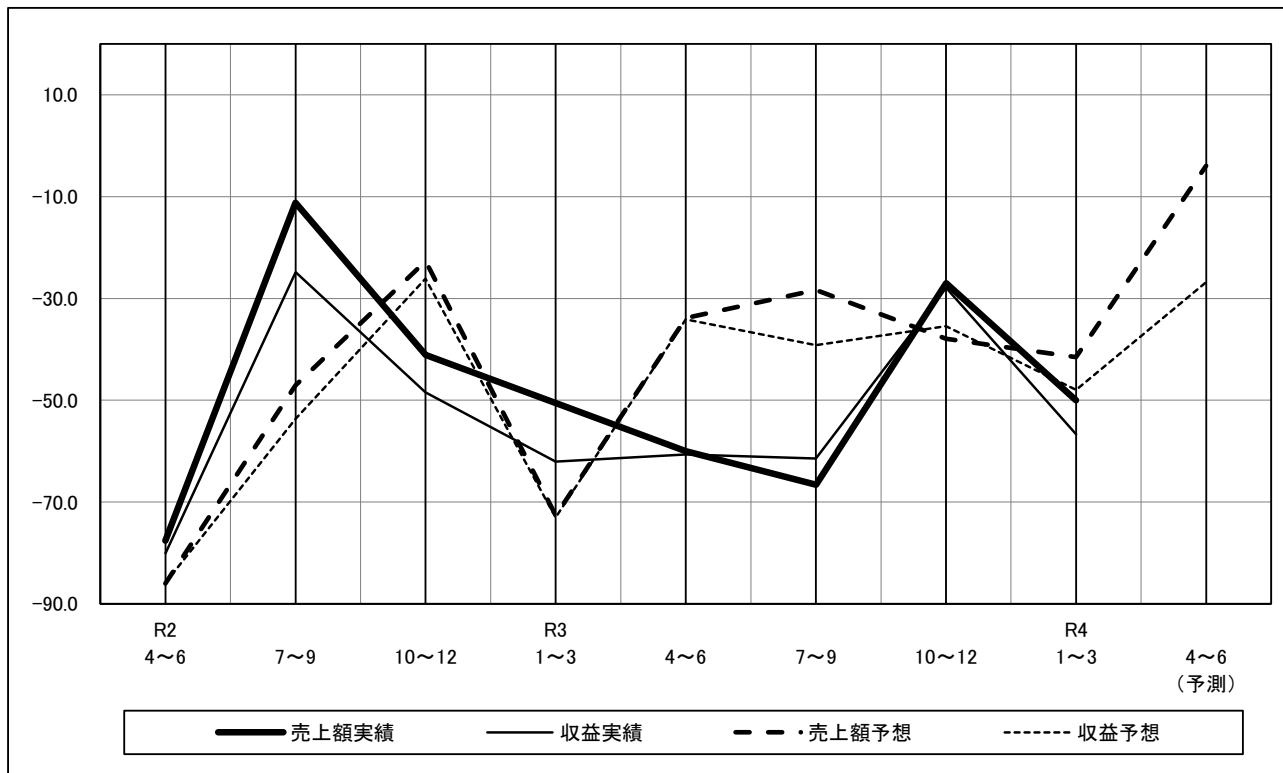
来期の見通し

業況(△72→△37)は極端に改善する見込み。売上額、収益はともに減少幅が極端に縮小すると予想されている。

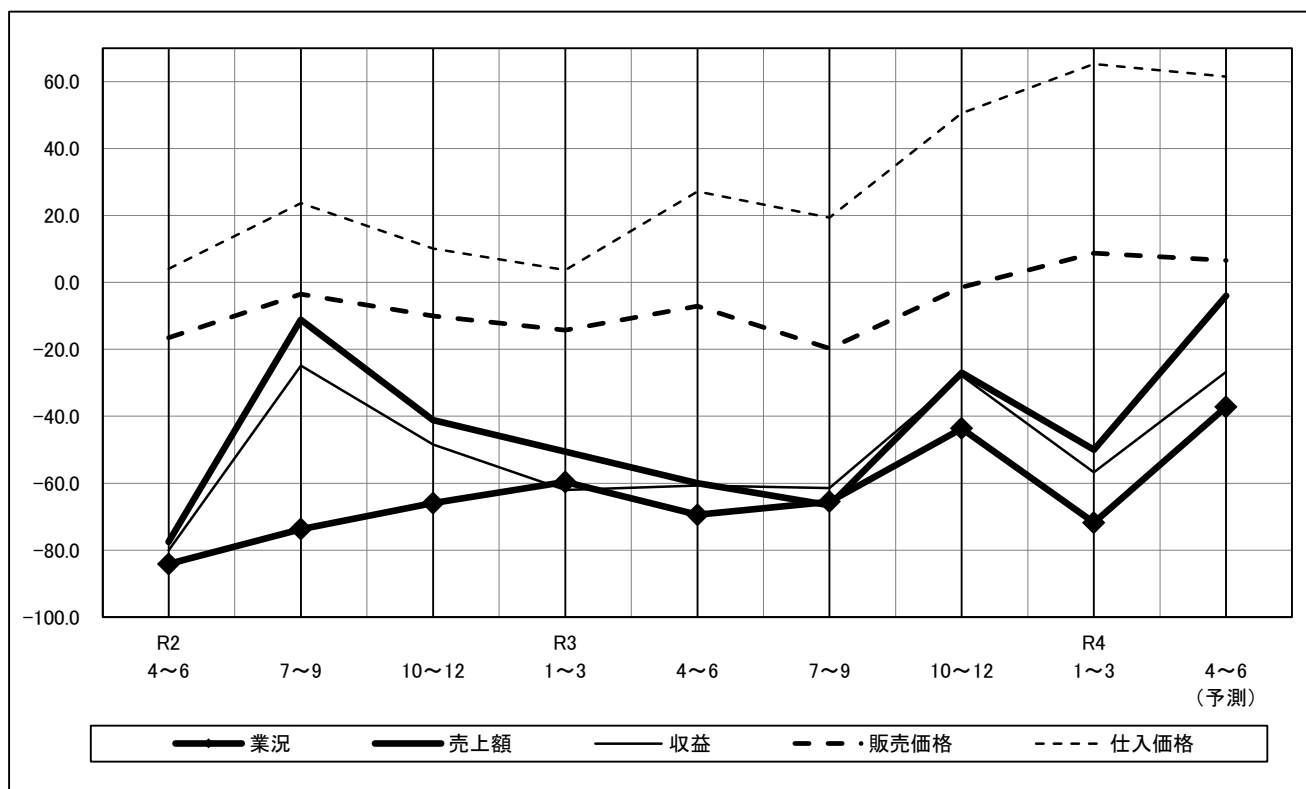
〈小売業〉品川区と東京都の業況の動き(実績)と来期の予測



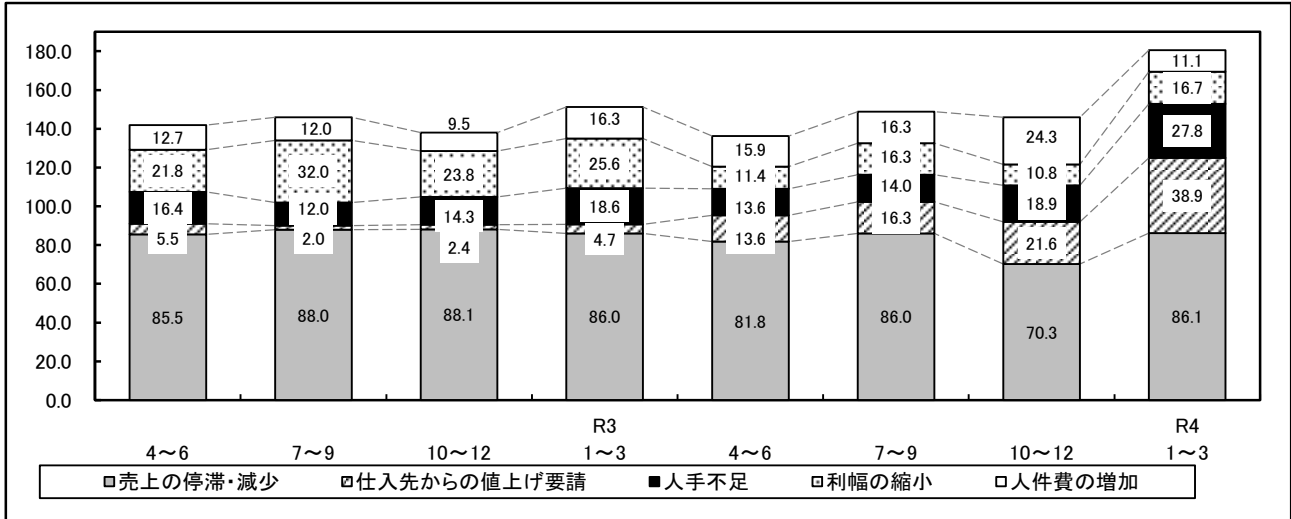
〈小売業〉 売上額・収益の実績と予想の推移



〈小売業〉 業況と売上額、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測

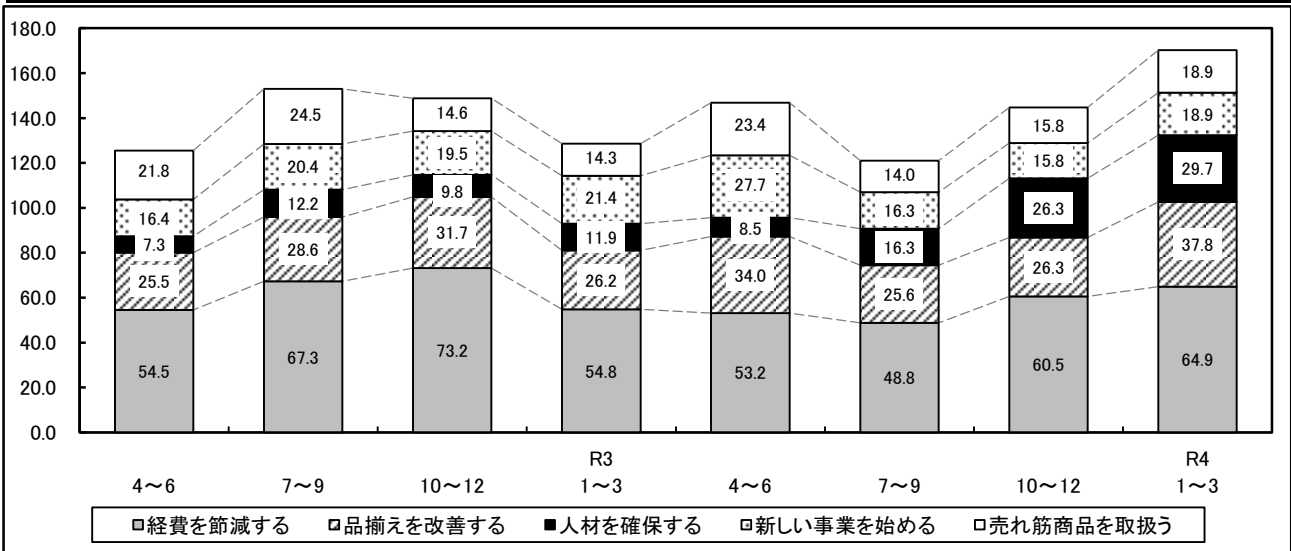


〈小売業〉 経営上の問題点 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	売上の停滞・減少	81.8 %	売上の停滞・減少	86.0 %	売上の停滞・減少	70.3 %	売上の停滞・減少	86.1 %
第2位	その他	20.5 %	天候の不順	18.6 %	人件費の増加	24.3 %	仕入先からの値上げ要請	38.9 %
第3位	同業者間の競争の激化	15.9 %	利幅の縮小	16.3 %	仕入先からの値上げ要請	21.6 %	人手不足	27.8 %
	人件費の増加	15.9 %	仕入先からの値上げ要請	16.3 %				
			人件費の増加	16.3 %				
			その他	16.3 %				
第4位	人手不足	13.6 %	人手不足	14.0 %	人手不足	18.9 %	利幅の縮小	16.7 %
	仕入先からの値上げ要請	13.6 %	取引先の減少	14.0 %				
	取引先の減少	13.6 %	商店街の集客力の低下	14.0 %				
第5位	利幅の縮小	11.4 %	同業者間の競争の激化	11.6 %	商店街の集客力の低下	16.2 %	人件費の増加	11.1 %
							人件費以外の経費の増加	11.1 %
							商店街の集客力の低下	11.1 %

〈小売業〉 重点経営施策 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	経費を節減する	53.2 %	経費を節減する	48.8 %	経費を節減する	60.5 %	経費を節減する	64.9 %
第2位	品揃えを改善する	34.0 %	品揃えを改善する	25.6 %	仕入先を開拓・選別する	28.9 %	品揃えを改善する	37.8 %
第3位	宣伝・広報を強化する	29.8 %	宣伝・広報を強化する	23.3 %	品揃えを改善する	26.3 %	人材を確保する	29.7 %
					人材を確保する	26.3 %		
第4位	新しい事業を始める	27.7 %	仕入先を開拓・選別する	20.9 %	宣伝・広報を強化する	23.7 %	新しい事業を始める	18.9 %
							売れ筋商品を取扱う	18.9 %
第5位	売れ筋商品を取扱う	23.4 %	新しい事業を始める	16.3 %	新しい事業を始める	15.8 %	宣伝・広報を強化する	16.2 %
			人材を確保する	16.3 %	店舗・設備を改装する	15.8 %		
					売れ筋商品を取扱う	15.8 %		

(1) 飲食料品

業況(△22→△59)は低調感が極端に強まった。売上額(△22→△74)、収益(△22→△74)はともに減少幅が極端に拡大した。販売価格(△5→△4)は前期並となり、仕入価格(69→79)は上昇傾向がかなり強まった。資金繰り(△40→△29)は厳しさがかなり和らいだ。

来期の業況は極端に改善すると予想されている。

(2) 飲食店

業況(△49→△78)は低調感が極端に強まった。売上額(△19→△58)、収益(△22→△58)はともに減少幅が極端に拡大した。販売価格(8→11)は上昇傾向がやや強まり、仕入価格(64→66)は上昇傾向がやや強まった。資金繰り(△31→△18)は厳しさがかなり和らいだ。

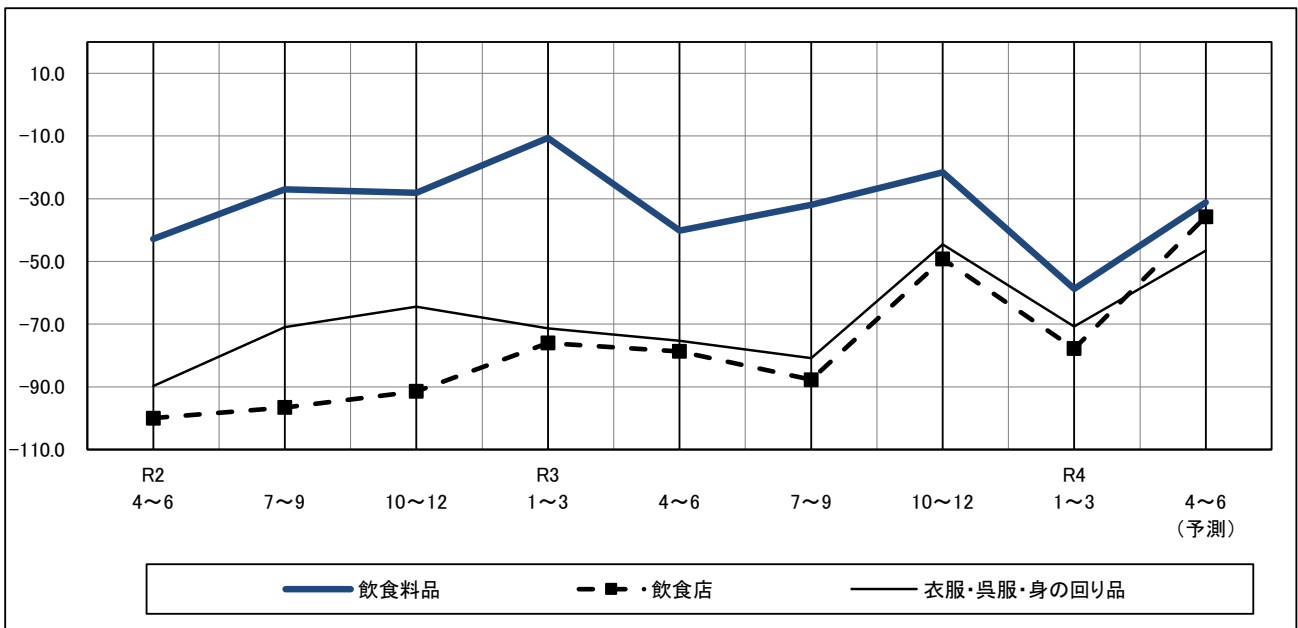
来期の業況は極端に改善すると予想されている。

(3) 衣服・呉服・身の回り品

業況(△45→△71)は低調感が極端に強まった。売上額(△35→△29)は減少幅がかなり縮小し、収益(△34→△45)は減少幅がかなり拡大した。販売価格(△10→11)は上昇に転じ、仕入価格(16→55)は上昇傾向が極端に強まった。資金繰り(△18→△34)は厳しさがかなり増した。

来期の業況は極端に改善すると予想されている。

〈小売業〉業種中分類別の業況の動き(実績)と来期の予測



小売業 業種別コメント

<飲食料品>

1. 閉店した後の新たなデベロッパーがないため、新店、売上増が見込めない。
2. 酒類販売を縮小し、受注販売に転換した。酒類小売政策の無力化のため、酒類販売を止めるかもしれない。
3. 売上の減少が続いている。

<飲食店>

1. 新型コロナウイルス感染症の影響で売上が減少している。
2. 新型コロナウイルス感染症の影響がずっと続いている。
3. 最低賃金だけ上昇し、景気に連動していない。原材料費も高騰してきているが値上げも困難。人手不足も深刻。
4. 新しい飲食店が増えている。
5. 今月でまん延防止等重点措置が解除されるので、来期の客足が動いてくれることを期待しています。
6. 引き続き売上が低迷している。
7. とにかく人手不足。
8. 輸入商品の価格が上がっており苦しい。
9. 冠婚葬祭の変化にともない非常に苦しい状況が続き、新型コロナウイルス感染症の影響が終わっても戻るとは考えられず希望が持てない。
10. 新型コロナウイルス感染症の影響により人出が減少しているため、売上が減少している。
11. 経費削減に努めているが、材料費や仕入費用が値上がりしている。

<衣服・呉服・身の回り品>

1. 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、着物を着る機会が少なくなっている状況。
2. 新型コロナウイルス感染症の影響で外出が減り、来店者も少なく売上が減少している。
3. 新型コロナウイルス感染症予防のための不要不急の外出禁止政策により、商店街に対する購買客が極端に落ちている。飲食業に拘わらず一般の物販店に相当響いている。一日も早く収束することを待つだけである。今年一年はまだまだ苦しいと思われる。
4. 4月よりほぼ全品値上げの指示がきている。
5. 仕入先の値上げが激しく、経費が増えている。

サービス業



() は、前期→今期

売上・収益の動向と業況判断

業況 ($\Delta 35 \rightarrow \Delta 22$) はかなり改善した。売上額 ($\Delta 21 \rightarrow \Delta 9$)、収益 ($\Delta 26 \rightarrow \Delta 12$) はともに減少幅がかなり縮小した。

なお、全都と比較した当区の業況は9ポイント上回っている。

価格・在庫動向

料金価格 ($\Delta 4 \rightarrow 4$) は上昇に転じ、材料価格 ($24 \rightarrow 36$) は上昇傾向がかなり強まった。

資金繰り・借入金動向

資金繰り ($\Delta 16 \rightarrow \Delta 9$) は厳しさがかなり和らぎ、借入難易度 ($9 \rightarrow 5$) は容易さがやや縮小した。今期借入れをした企業は35%で前期の22%から13ポイント増加した。

経営上の問題点・重点経営施策

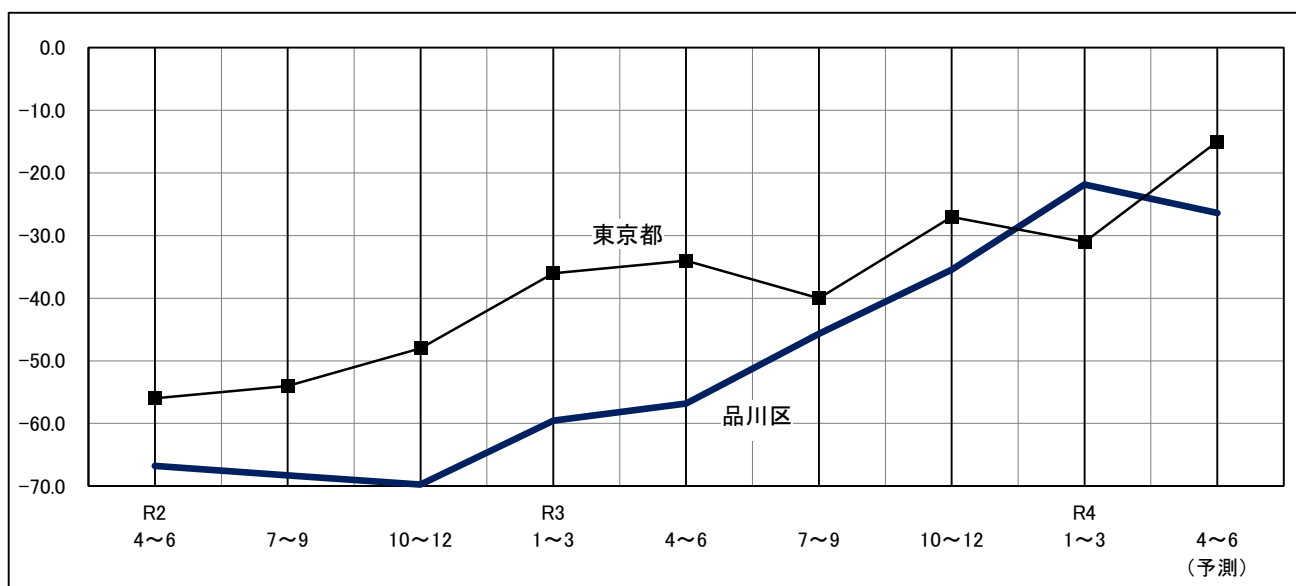
経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」が64%、2位は「人手不足」が38%、3位は「材料価格の上昇」と「人件費の増加」が22%となった。前期8位だった「材料価格の上昇」が、今期3位と順位を上げ、令和2年4~6月期以降で最も高い割合となっている。(40ページ参照)

重点経営施策は、1位は「経費を節減する」が41%、2位は「人材を確保する」が39%、3位は「販路を広げる」が34%となった。前期と比べ、上位3項目に変動はなかった。

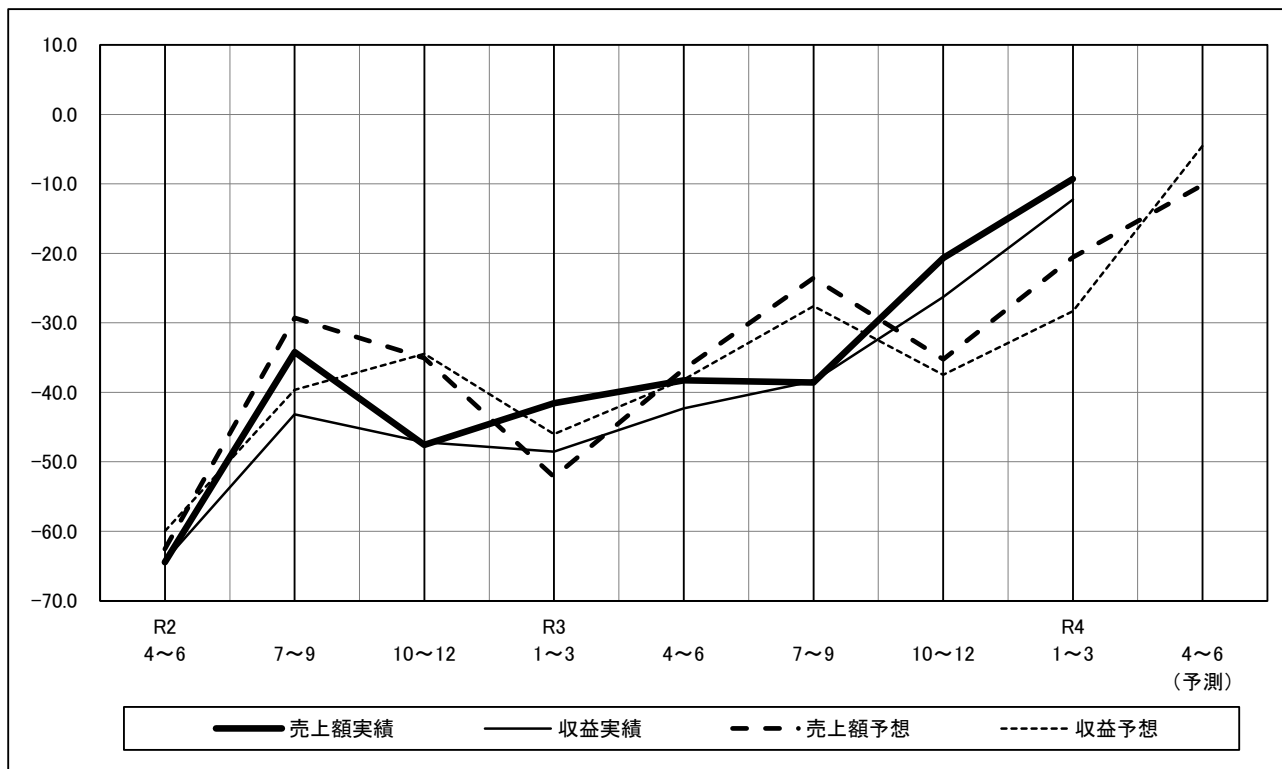
来期の見通し

業況 ($\Delta 22 \rightarrow \Delta 26$) は低調感がやや強まる見込み。売上額は今期並となり、収益は減少幅がかなり縮小すると予想されている。

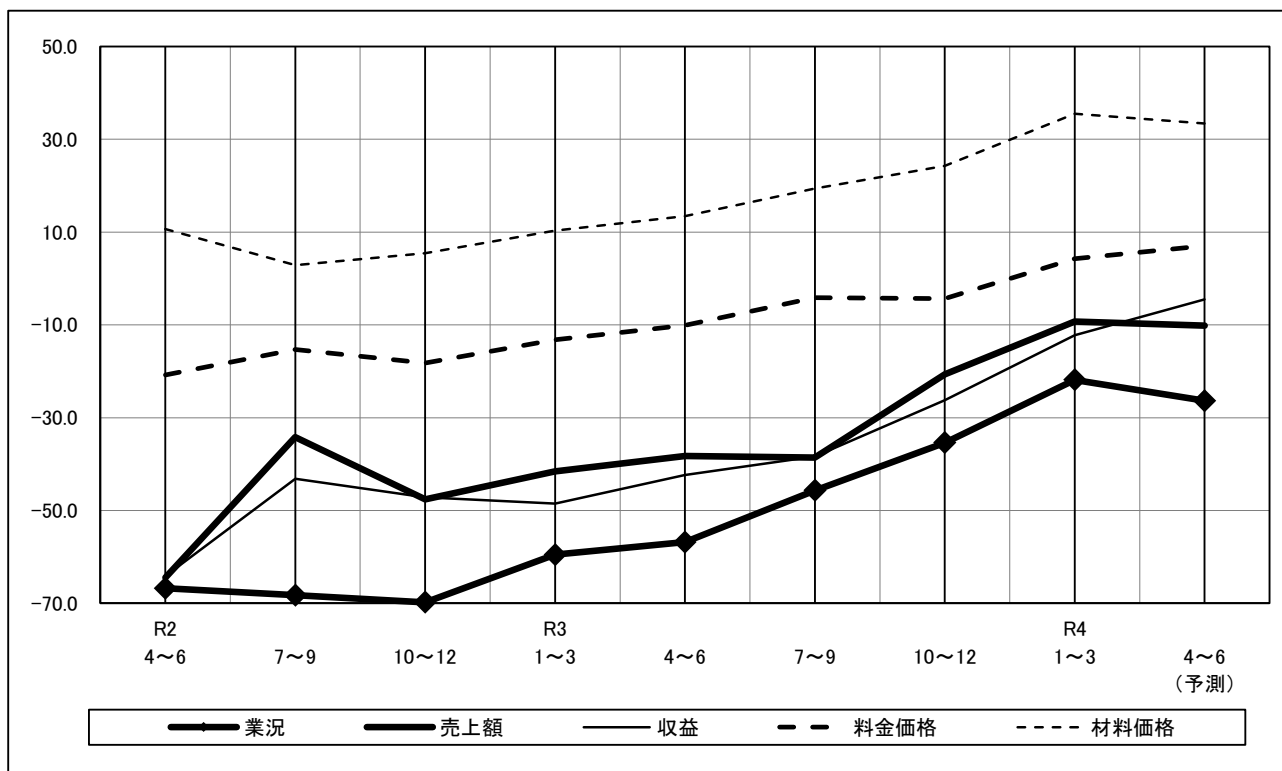
〈サービス業〉 品川区と東京都の業況の動き(実績)と来期の予測



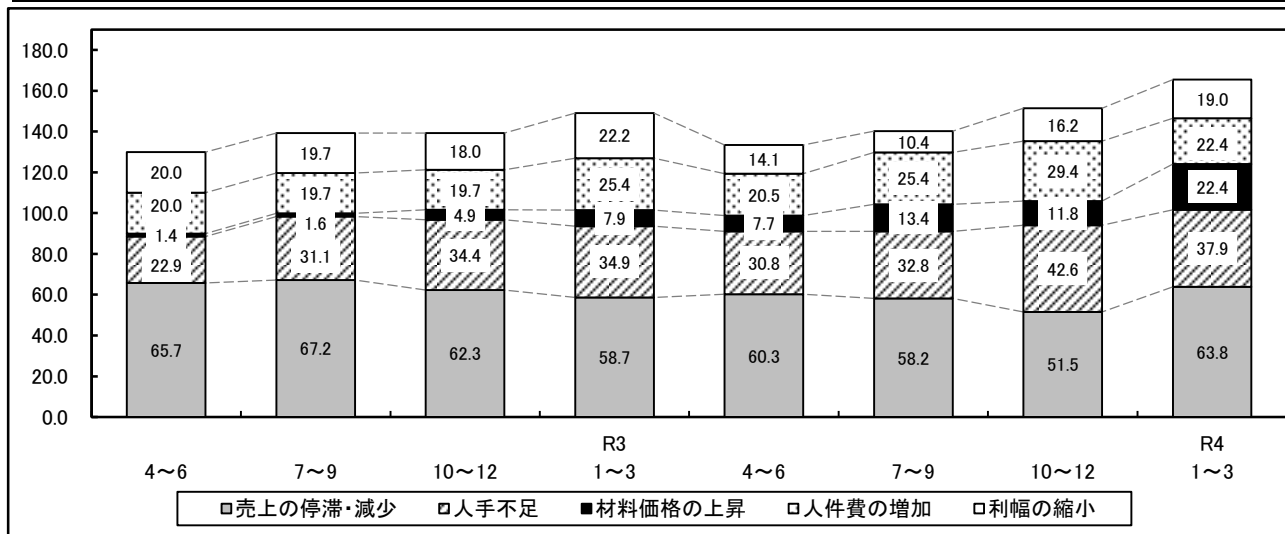
〈サービス業〉 売上額・収益の実績と予想の推移



〈サービス業〉 業況と売上額、収益、料金価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測

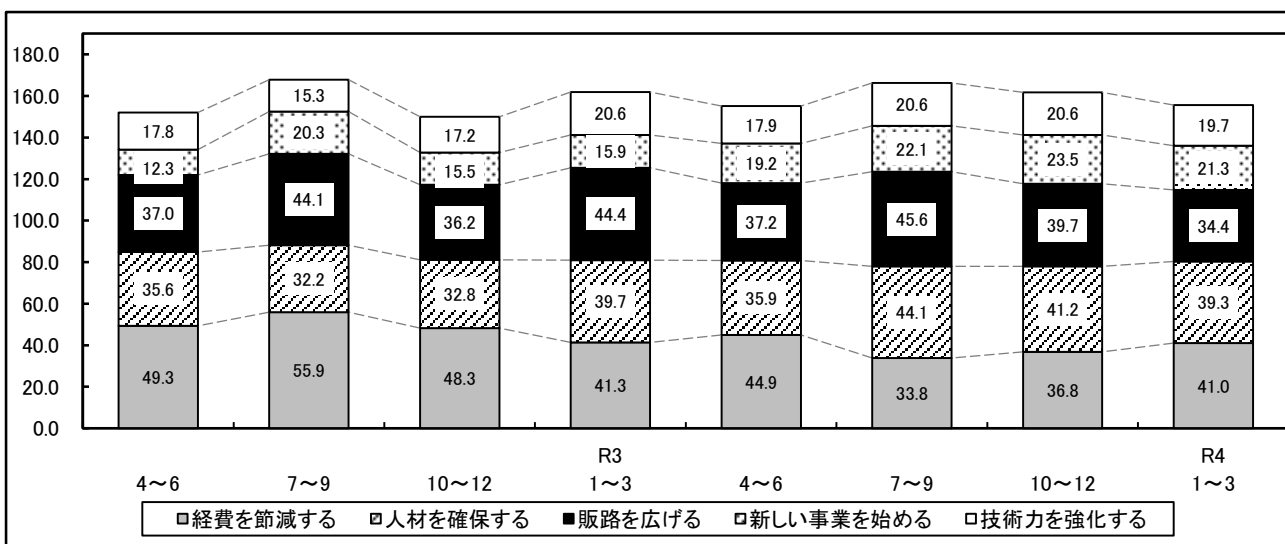


〈サービス業〉 経営上の問題点 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	売上停滞・減少	60.3 %	売上停滞・減少	58.2 %	売上停滞・減少	51.5 %	売上停滞・減少	63.8 %
第2位	人手不足	30.8 %	人手不足	32.8 %	人手不足	42.6 %	人手不足	37.9 %
第3位	人件費の増加	20.5 %	同業者間の競争の激化	29.9 %	人件費の増加	29.4 %	材料価格の上昇 人件費の増加	22.4 % 22.4 %
第4位	同業者間の競争の激化	15.4 %	人件費の増加	25.4 %	同業者間の競争の激化	22.1 %	利幅の縮小	19.0 %
第5位	利幅の縮小	14.1 %	材料価格の上昇	13.4 %	技術力の不足	19.1 %	同業者間の競争の激化	17.2 %

〈サービス業〉 重点経営施策 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	経費を節減する	44.9 %	販路を広げる	45.6 %	人材を確保する	41.2 %	経費を節減する	41.0 %
第2位	販路を広げる	37.2 %	人材を確保する	44.1 %	販路を広げる	39.7 %	人材を確保する	39.3 %
第3位	人材を確保する	35.9 %	経費を節減する	33.8 %	経費を節減する	36.8 %	販路を広げる	34.4 %
第4位	新しい事業を始める 教育訓練を強化する	19.2 % 19.2 %	新しい事業を始める	22.1 %	新しい事業を始める	23.5 %	新しい事業を始める	21.3 %
第5位	技術力を強化する	17.9 %	技術力を強化する	20.6 %	技術力を強化する	20.6 %	技術力を強化する	19.7 %

サービス業 業種別コメント

1. 新型コロナウイルス感染症の影響で売上減少、経営を圧迫している。
2. 新型コロナウイルス感染症の影響で海外旅行の需要が増えず、先行きも見えない。
3. 経営が良くなる兆しは全くない。
4. 主に子供を対象としているスクールの退会者が多い。
5. 来場者が増えているが、材料費が上昇することにより収益は微増。
6. 新型コロナウイルス感染症の影響で顧客減少、人々の行動変化がどこまで持続するかが一つのカギ。8人程度のグループ客が来店できるようになってほしい。
7. 発注先が外注費の削減の発注費を絞る傾向が続いており、受注量と数が減少傾向にある。
8. 業界内の認知がされてきたため販路が拡大し、売上が増加している。同業他社よりも優先してもらえるビジネスモデルのため、社員のやりがいにつながっている。
9. 新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか営業ができないため、仕事の情報が入りづらい。対面での営業に頼り過ぎていたので、新しい環境で思うようにできていない。
10. 新型コロナウイルス感染症の影響はだいぶ薄れてきたが、料金単価は低い水準のままとなっている。
11. 販路が増加し増収増益。ホテル客室清掃の単価アップ。
12. 既存の取引先との関係は変わらずに売上高・利益は横ばい状態であり、安定していると言えば安定しています。新型コロナウイルス感染症の影響もあって新規の販路を切り拓く機会が乏しく、会社の成長に結び付けることが難しいと思っています。
13. 人件費に見合った業務（高単価）を増やせない状況が続いており収益が伸びない。
14. 売上減少。顧客開拓が重要。材料費の値上がりが利益を減少させている。
15. 新型コロナウイルス感染症の影響で見た課題に対して、今期～来期に向けて新事業の立ち上げを実施する予定で動いています。現事業の状況は今期に入っても波があり経営面で不安定になるため、資金繰りの安定と事業立ち上げで資金調達を検討しています。
16. 新型コロナウイルス感染症の影響が続いている。
17. 新型コロナウイルス感染症の影響での在宅勤務、学校でのリモート授業等により社員給食、学校給食の利用者が激減している。最低賃金の値上がり、食材費の値上がりによる収益の圧迫がある。
18. 今年度は増収増益だが、来年度は下がる見込み。半導体不足による部品納期遅延の影響もあり、受注NGの物件も多くなっている。
19. 新型コロナウイルス感染症の影響が続く。回復はGW以降と予想している。
20. 新型コロナウイルス感染症の影響で現在も売上激減している。
21. 仕入価格上昇による売上高減少の可能性大。
22. 教育関係で新型コロナウイルス感染症の影響で集客（出張体験会、説明会）ができない反面、大手はCM等で告知することで後手に回り、売上がなかなか増えない。またPC開発等も提携先等の事業縮小に伴い案件が減っているので、社会全体が動いてこないと回復が難しい。
23. 受注が増えている。
24. ブランド力が上がっているため入学者が増えた。社内の教育と育成を強化したため。
25. 引き続き新規拡大に全力を向けます。

建設業



() は、前期→今期

売上・収益の動向と業況判断

業況 ($\Delta 36 \rightarrow \Delta 38$) は低調感がやや強まった。売上額 ($\Delta 30 \rightarrow \Delta 36$)、施工高 ($\Delta 31 \rightarrow \Delta 39$) はともに減少幅がかなり拡大した。収益 ($\Delta 34 \rightarrow \Delta 35$) は前期並となった。

価格・在庫動向

請負価格 ($\Delta 33 \rightarrow \Delta 28$) は下降傾向がやや弱まり、材料価格 (55→58) は上昇傾向がやや強まった。在庫 ($\Delta 7 \rightarrow 1$) は過剰に転じた。

資金繰り・借入金動向

資金繰り ($\Delta 29 \rightarrow \Delta 30$) は前期並、借入難易度 ($\Delta 8 \rightarrow \Delta 3$) はやや改善した。今期借入れをした企業は33%で前期の36%から3ポイント減少した。

経営上の問題点・重点経営施策

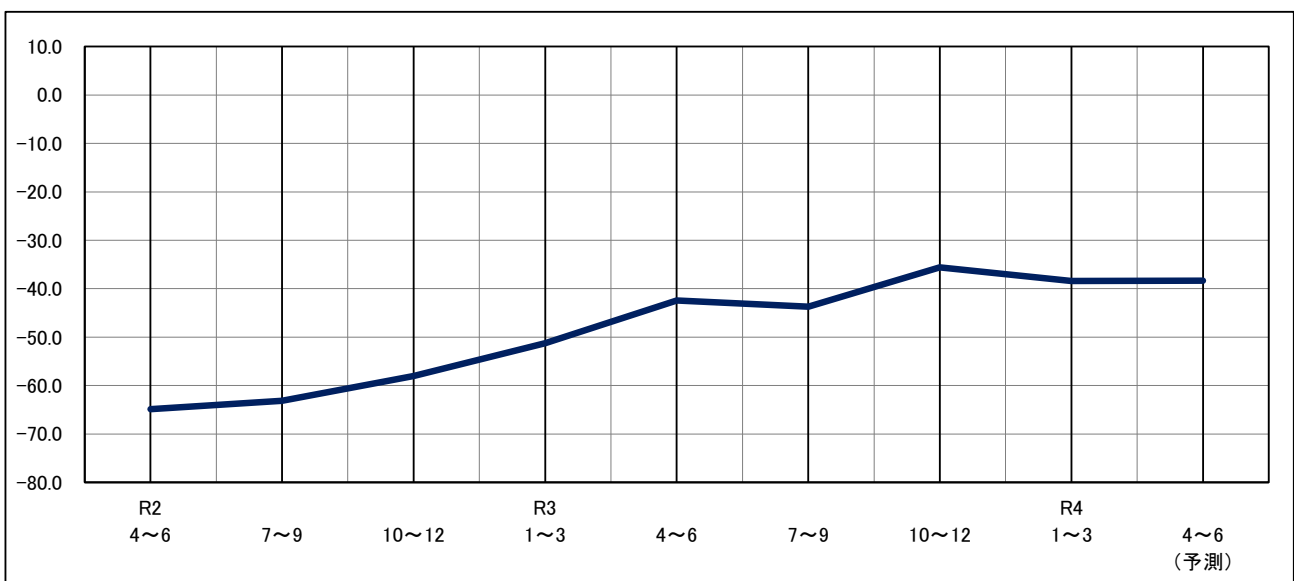
経営上の問題点は、1位は「材料価格の上昇」が55%、2位は「売上の停滞・減少」が45%、3位は「人手不足」が39%となった。前期と比べ、上位3項目に変動はなかった。「材料価格の上昇」は、令和2年4～6月期以降で最も高い割合となっている。(42ページ参照)

重点経営施策は、1位は「人材を確保する」が50%、2位は「経費を節減する」が38%、3位は「販路を広げる」が36%となった。前期4位だった「販路を広げる」が、今期3位と順位を上げた。「人材を確保する」は、令和2年4～6月期以降で最も高い割合となっている。(42ページ参照)

来期の見通し

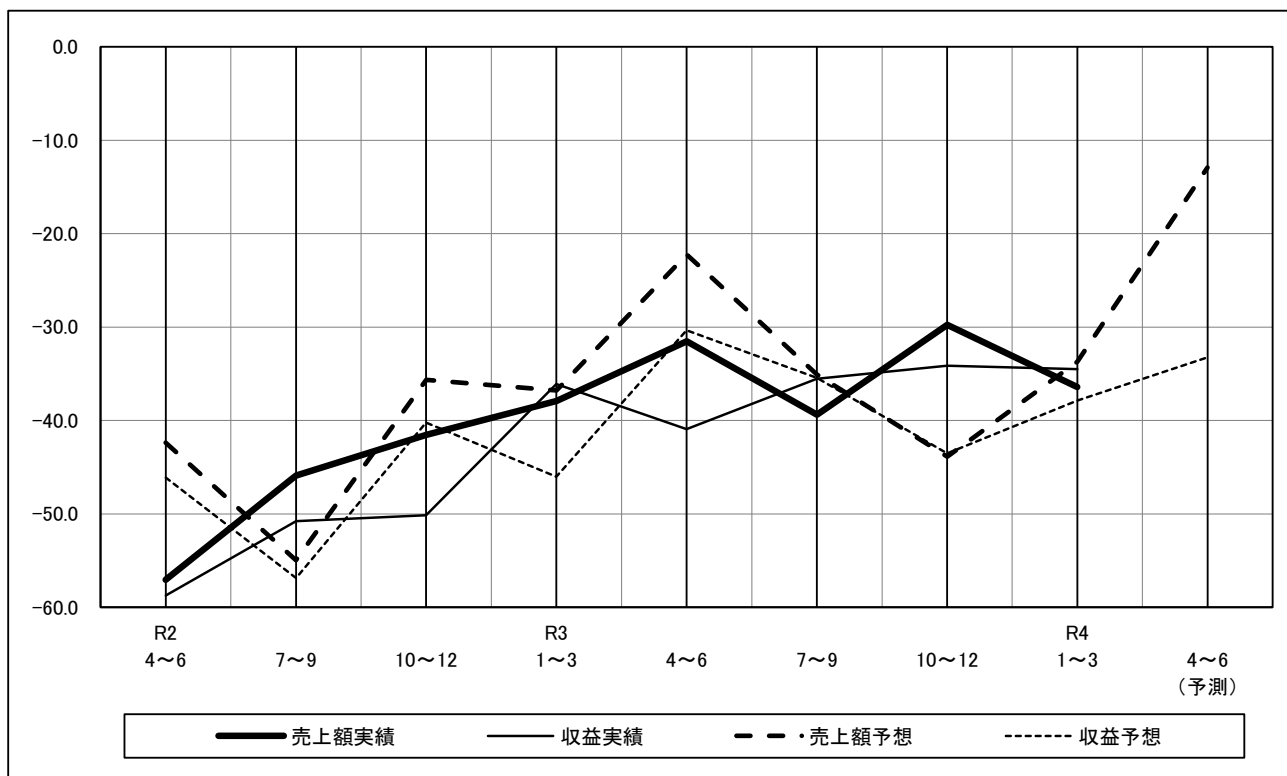
業況 ($\Delta 38 \rightarrow \Delta 38$) は今期並となる見込み。売上額は減少幅が極端に縮小し、収益は今期並となると予想されている。

<建設業> 品川区の業況の動き(実績)と来期の予測

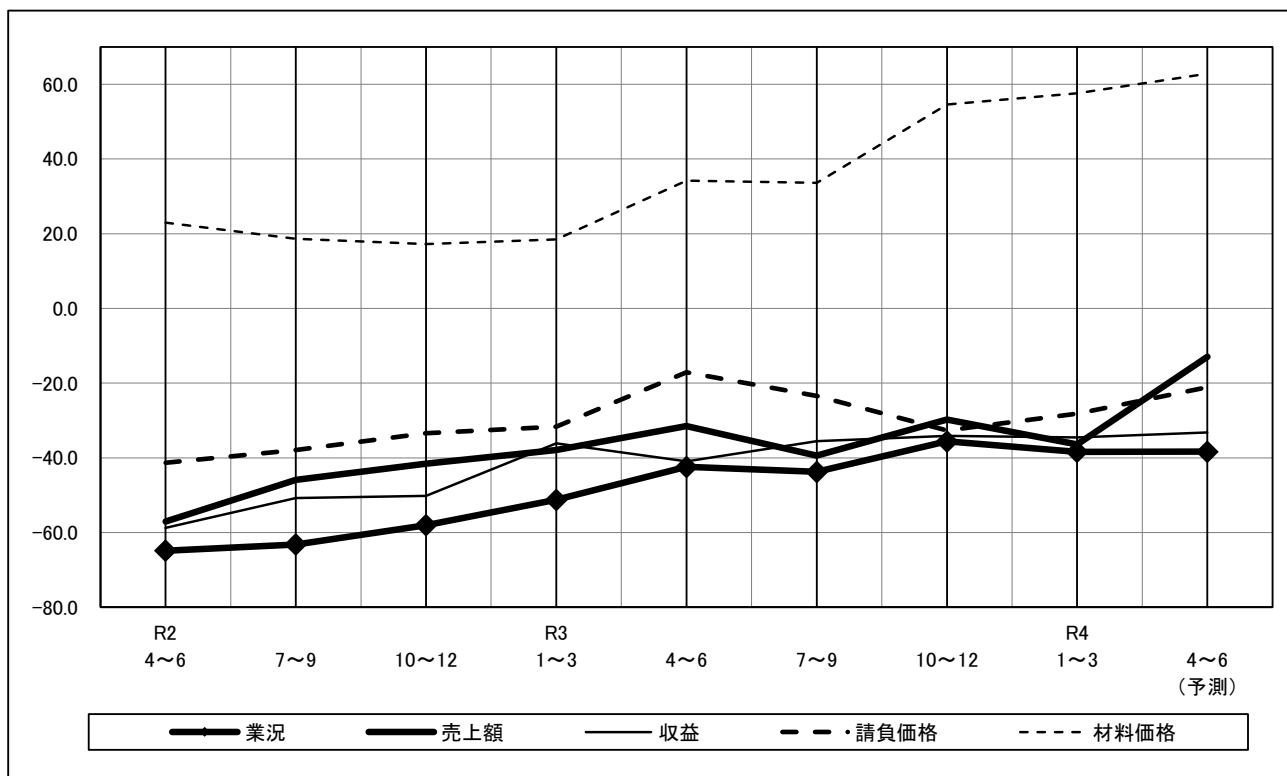


※ 東京都の景況調査では建設業の調査は実施されていないため、全都の建設業の業況は表示していない。

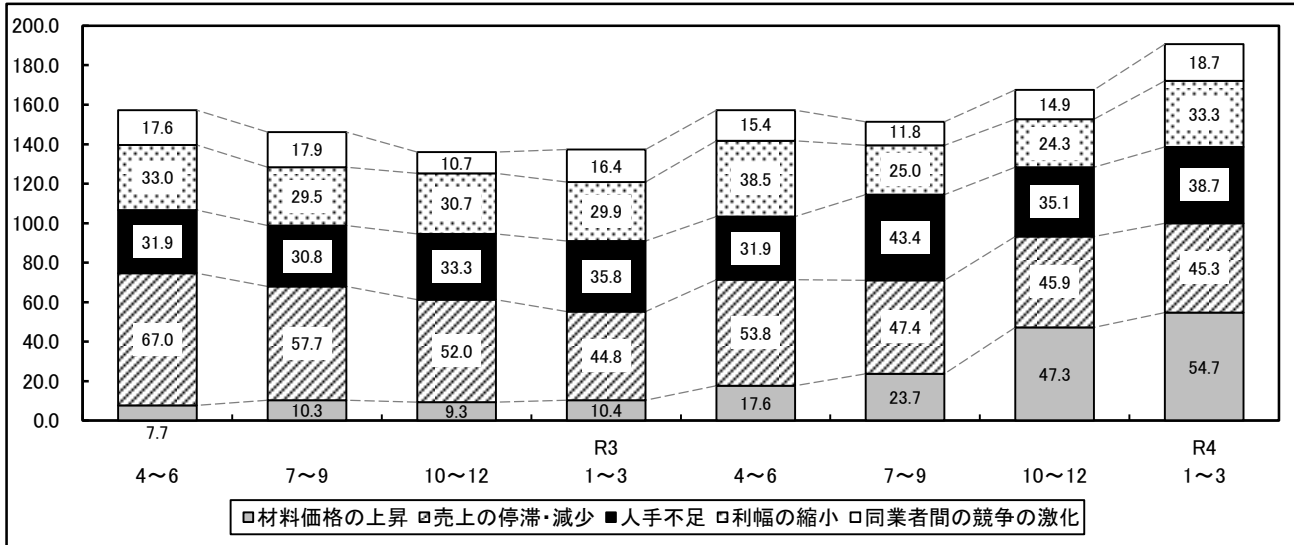
〈建設業〉 売上額・収益の実績と予想の推移



〈建設業〉 業況と売上額、収益、請負価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測

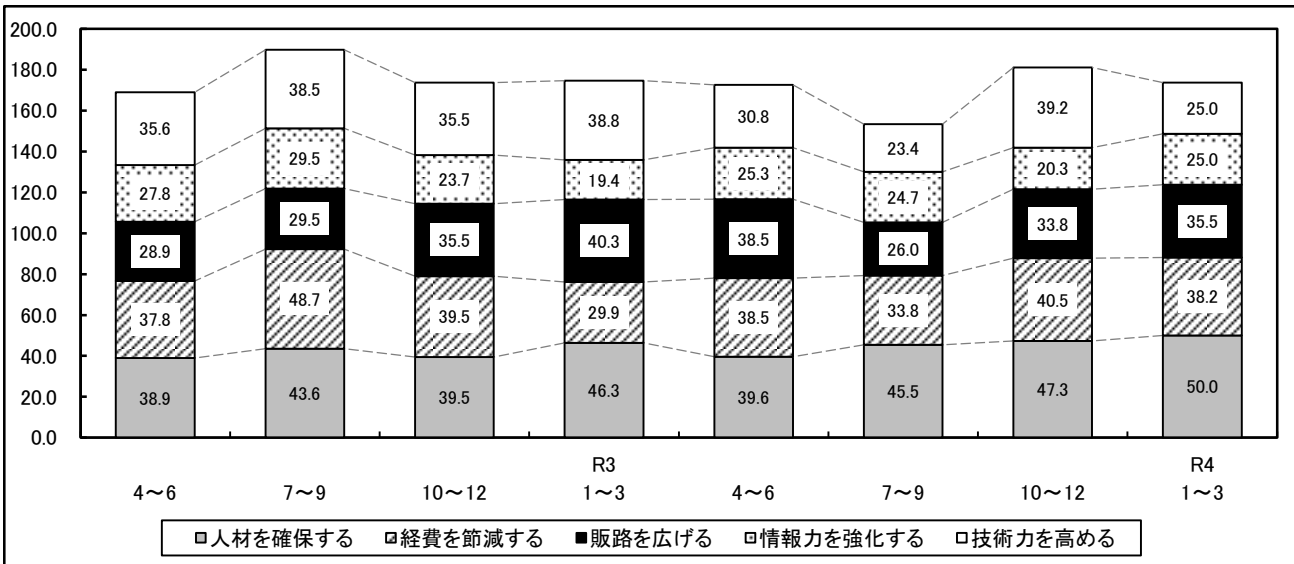


〈建設業〉 経営上の問題点 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	売上の停滞・減少	53.8 %	売上の停滞・減少	47.4 %	材料価格の上昇	47.3 %	材料価格の上昇	54.7 %
第2位	利幅の縮小	38.5 %	人手不足	43.4 %	売上の停滞・減少	45.9 %	売上の停滞・減少	45.3 %
第3位	人手不足	31.9 %	利幅の縮小	25.0 %	人手不足	35.1 %	人手不足	38.7 %
第4位	材料価格の上昇	17.6 %	材料価格の上昇	23.7 %	下請の確保難	25.7 %	利幅の縮小	33.3 %
第5位	同業者間の競争の激化	15.4 %	人件費の増加	14.5 %	利幅の縮小	24.3 %	同業者間の競争の激化	18.7 %

〈建設業〉 重点経営施策 (%)



	R3.4~6月期		R3.7~9月期		R3.10~12月期		R4.1~3月期	
第1位	人材を確保する	39.6 %	人材を確保する	45.5 %	人材を確保する	47.3 %	人材を確保する	50.0 %
第2位	販路を広げる	38.5 %	経費を節減する	33.8 %	経費を節減する	40.5 %	経費を節減する	38.2 %
第3位	技術力を高める	30.8 %	販路を広げる	26.0 %	技術力を高める	39.2 %	販路を広げる	35.5 %
第4位	情報力を強化する	25.3 %	情報力を強化する	24.7 %	販路を広げる	33.8 %	情報力を強化する	25.0 %
第5位	教育訓練を強化する	9.9 %	技術力を高める	23.4 %	情報力を強化する	20.3 %	教育訓練を強化する	14.5 %
	特になし	9.9 %						

建設業 業種別コメント

1. 安定した人材確保により需要が増えつつある。
2. 受注減少傾向。物件の取得ができなくなってきた。
3. 受注減少。
4. 受注の見通しが間近にならないと判明してこない。
5. 今期は工事の受注があり、売上、収益の増加がある。今後は不明。
6. 大手ゼネコンに現場監督として派遣している。本来の大工事は現在行っていない。
7. 今までの工務店が減り、ネットなどでの広報で新規顧客を増やしている。
8. 売上高が上がらず、資金繰りが苦しい。
9. 需要が減少しているが、新しい分野に進出し売上を伸ばしていく予定。
10. 景気低迷により受注量が低下して、減収減益になっている。
11. 燃料費上昇により全て値上がり。先の見積ができない。
12. 新型コロナウイルス感染症の影響で部材が入ってこなくなり納期が遅れることが多くなりました。困っています。
13. 注文があっても半導体不足から製品が入手できない。
14. テレワークが進みテナント工事量が少なくなり、夜間工事量が減っている。材料、資材不足による工事延期、変更等が今後も懸念される。
15. 材料価格の高騰および入手困難により施工に多大な影響が出ている。
16. 得意先の高齢化が進み、廃業が増えている。
17. 受注の大幅減による収入確保に苦慮。
18. 施主の景気上昇に伴い、売上等伸びている。
19. 人手不足により受注が思うようにできず売上が停滞している。
20. 材料の値上げ、納期遅れで工期に影響あり。
21. 受注増の中、採用ができずに人手不足になっている。
22. テレワーク、SNS、情報が当社の現場修繕と合わないため減少している。
23. 来年度以降、受注・売上が増えるので、人材の確保が重要事項となる。
24. 社員が高齢のため若い人材が欲しい。
25. 事務所移設ため見通しが立っておりません。
26. 新型コロナウイルス感染症の影響がやや残り、工期の遅れが発生している。
27. 取引先がM&Aにより、競合他社を取得するため、受注が減少する予定。
28. 下請けからの脱却が急務。
29. とにかく材料がない。お客様もご存知で無理を仰らないので助かっている半面、売上が伸びない。
30. 繁忙期と閑散期が交互に来るので人材の確保が難しい。
31. 今期、来期までは仕事、人材は確保できている。現場の始まりが予定よりも先延ばしになる事が多く、調整が大変である。
32. 物件数は有るが、人手不足のため受注するのが困難。
33. 人材不足の問題は続いている。
34. 工場現場の延期・遅れ。
35. 新型コロナウイルス感染症の影響に耐えられず長年来的仕事をあきらめ閉店となる店舗続出。おのずと注文がなくなった。
36. 材料費の上昇をお客様に転換しづらい。
37. 採用募集中だが人材が集まらない。
38. 受注量の増減変動が激しく、安定操業の維持が困難。
39. 受注増の中、採用が追いつかず人手不足になっている。
40. 今期は予想より良かったが、来期は厳しい状況が予想されるため、経費を削減し効率の良い経営をしていくようにする。
41. 需要が増え、増収増益が続いている。

日銀短観

[調査対象企業数]

(2022年3月調査)

	製造業	非製造業	合計	回答率
全国企業	3,837社	5,525社	9,362社	99.1%
うち大企業	964社	864社	1,828社	98.7%
中堅企業	1,026社	1,595社	2,621社	98.8%
中小企業	1,847社	3,066社	4,913社	99.4%

(参考)事業計画の前提となっている想定為替レート(全規模・全産業)

		2021年度		2022年度		
		上期	下期	上期	下期	下期
円/ドル	2021年12月調査	109.09	108.83	109.36	—	—
	2022年3月調査	110.00	109.05	110.96	111.93	111.92
円/ユーロ	2021年12月調査	127.70	127.92	127.49	—	—
	2022年3月調査	128.01	128.11	127.92	128.18	128.17

[売上高・収益計画]

(前年度比・%)

		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
		修正率	修正率	修正率	修正率
大企業	製造業	10.0	-0.3	2.4	—
	国内	6.5	-0.7	2.6	—
	輸出	18.1	0.8	2.1	—
	非製造業	1.3	0.7	1.0	—
中堅企業	全産業	5.0	0.3	1.6	—
	製造業	9.6	0.8	5.5	—
	非製造業	1.7	0.8	3.1	—
中小企業	全産業	3.7	0.8	3.7	—
	製造業	6.7	0.5	2.7	—
	非製造業	2.3	0.4	1.1	—
全規模合計(注)修正率	全産業	3.3	0.4	1.4	—
	製造業	9.4	0.0	3.0	—
	非製造業	1.7	0.6	1.6	—
		4.3	0.4	2.1	—

[業況判断]

(「良い」-「悪い」・%ポイント)

	2021年12月調査		2022年3月調査			
	最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
大企業						
製造業	17	13	14	-3	9	-5
非製造業	10	9	9	-1	7	-2
全産業	14	10	11	-3	8	-3
中堅企業						
製造業	6	6	3	-3	1	-2
非製造業	2	0	0	-2	-3	-3
全産業	4	3	2	-2	-1	-3
中小企業						
製造業	-1	-1	-4	-3	-5	-1
非製造業	-3	-6	-6	-3	-10	-4
全産業	-3	-4	-6	-3	-8	-2
全規模合計						
製造業	6	4	2	-4	0	-2
非製造業	0	-2	-2	-2	-5	-3
全産業	2	0	0	-2	-3	-3

[需給・在庫・価格判断]

(%ポイント)

		2021年12月調査		2022年3月調査			
		最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
国内での製商品・サービス需給判断 (「需要超過」-「供給超過」)	製造業	-11	-13	-12	-1	-12	0
	うち素材業種	-13	-16	-17	-4	-15	2
	加工業種	-10	-11	-9	1	-11	-2
	非製造業	-13	-14	-14	-1	-15	-1
海外での製商品需給判断 (「需要超過」-「供給超過」)	製造業	-3	-4	-3	0	-3	0
	うち素材業種	-6	-8	-9	-3	-9	0
	加工業種	0	-2	0	0	0	0
製商品在庫水準判断 (「過大」-「不足」)	製造業	9	9	11	2	2	1
	うち素材業種	9	9	12	3	3	2
	加工業種	8	8	10	2	2	1
製商品流通在庫水準判断 (「過大」-「不足」)	製造業	2	2	4	2	2	1
	うち素材業種	4	4	9	5	5	4
	加工業種	1	1	0	-1	0	-1
販売価格判断 (「上昇」-「下落」)	製造業	16	22	23	7	32	9
	うち素材業種	26	29	33	7	44	11
	加工業種	8	17	16	8	25	9
	非製造業	7	11	12	5	20	8
仕入価格判断 (「上昇」-「下落」)	製造業	60	61	70	10	72	2
	うち素材業種	61	59	71	10	72	1
	加工業種	60	63	71	11	71	0
	非製造業	40	41	48	8	55	7

東京都と品川区の企業倒産動向 (令和4年3月)

(件数)

(億円)

1. 東京都の倒産概況

(単位: 件・億円)

	令和3年3月	令和4年2月	令和4年3月	前月比	前年同月比
件数	123	81	99	18	▲24
金額	731	63	537	474	▲194

2. 原因別倒産動向

(単位: 件・億円)

	放漫経営	過小資本	他社倒産の余波	既住のしわ寄せ	販売不振
件数	11	322.3	1	0.1	9
金額	57.3	10	15.6	63	135.1
	0	0.0	0	0.0	0
	0	0.0	0	0.0	5
	0	0.0	0	0.0	7.0

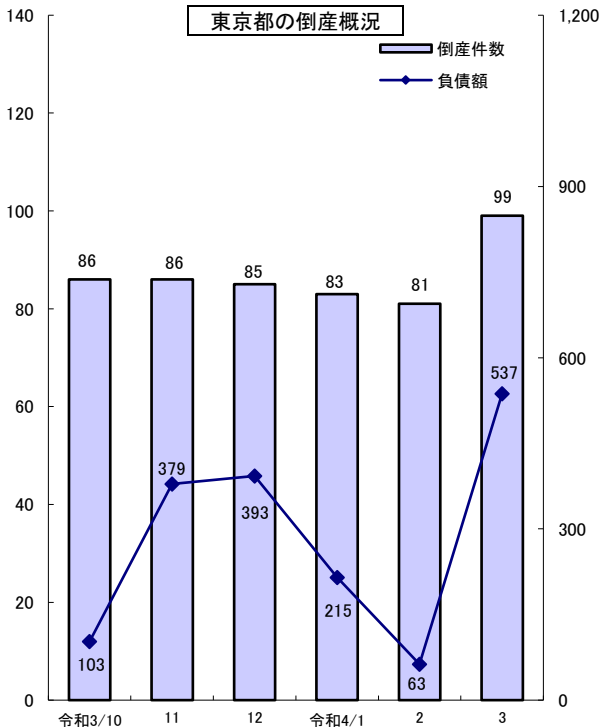
3. 業種別倒産動向

(単位: 件・億円)

	件数			金額		
	前年同月	前月	当月	前年同月	前月	当月
製造業	11	2	3	6	1	1
卸売業	15	12	15	17	25	316
小売業	14	7	6	474	4	1
サービス業	32	27	21	173	16	26
建設業	13	6	16	8	3	10
不動産業	6	3	3	3	4	11
情報通信業・運輸業	12	13	18	10	4	17
宿泊業・飲食サービス業	15	10	13	38	6	153
その他	5	1	4	3	1	2
合計	123	81	99	731	63	537

4. 品川区内の令和4年3月の倒産動向

業種	件数	負債総額
製造業	0件	0百万円
卸売業	0件	0百万円
小売業	0件	0百万円
サービス業	4件	1,847百万円
建設業	2件	60百万円
不動産業	0件	0百万円
情報通信業・運輸業	1件	50百万円
宿泊業・飲食サービス業	0件	0百万円
その他	0件	0百万円
合計	7件	1,957百万円



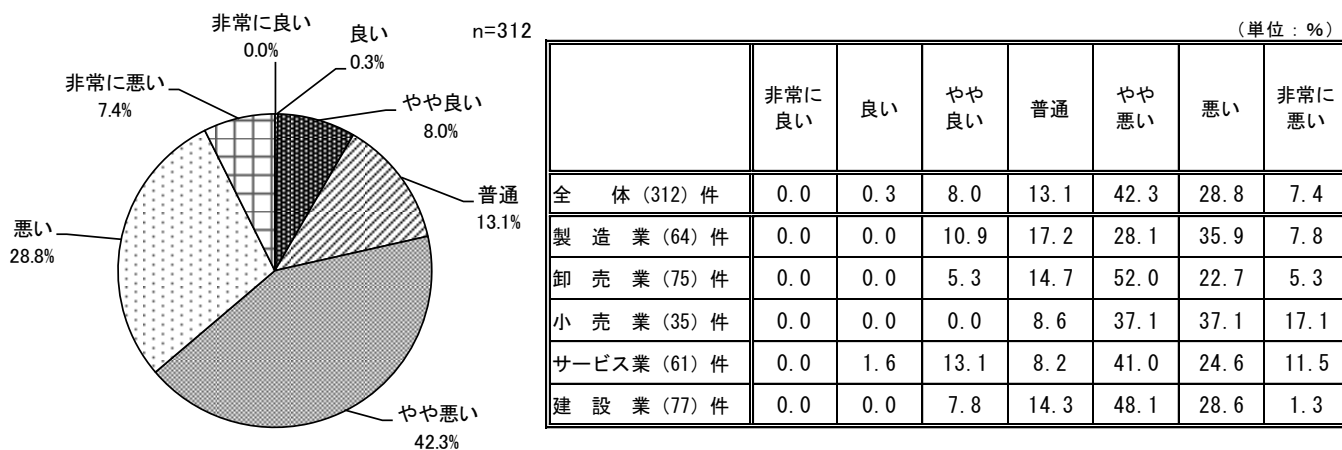
特別調査「令和4年度の経営見通し」

- ① 令和4年度の日本の景気については『良い』が8.3%、『悪い』が78.5%
- ② 令和4年度の自社の業況（景気）は『良い』が12.7%、『悪い』が67.5%
- ③ 令和4年度の自社の売上額の伸び率は『増加』が26.0%、『減少』が52.4%
- ④ 自社の業況が上向く転換点については、「業況改善の見通しは立たない」が27.1%で最多
- ⑤ 経営に影響を及ぼす事象は、「原材料価格・資源価格の動向」が58.2%で最多

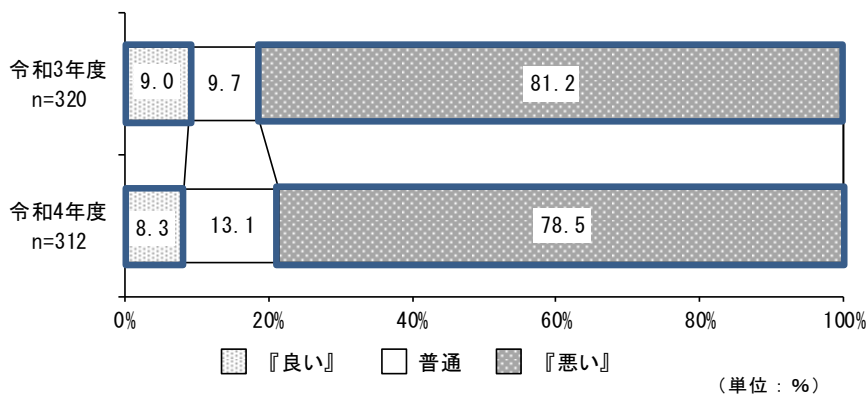
問1. 令和4年度の日本の景気見通し

日本の景気見通しについては、全体では「やや悪い」が42.3%で最も多く、次いで「悪い」が28.8%、「普通」が13.1%となった。「非常に良い」、「良い」、「やや良い」を合わせた『良い』の割合は8.3%、反対に「非常に悪い」、「悪い」、「やや悪い」を合わせた『悪い』の割合は78.5%となり、『悪い』が『良い』を70.2ポイント上回った。

いずれの業種においても、景気の見通しについて、『悪い』に回答が集中していることを示す結果となった。『良い』と回答した企業の割合が最も多いのはサービス業で14.7%、次いで製造業で10.9%となったが、卸売業と建設業では1割未満となった。また、小売業では『良い』と回答した企業はなかった。なお、『悪い』と回答した企業の割合が最も多いのは小売業の91.3%となっている。



日本の景気見通しの前年度同期の結果（令和3年3月）との比較では、全体の『良い』は前年9.0%から8.3%と0.7ポイント減少した。『悪い』は前年81.2%から78.5%と2.7ポイント減少した。



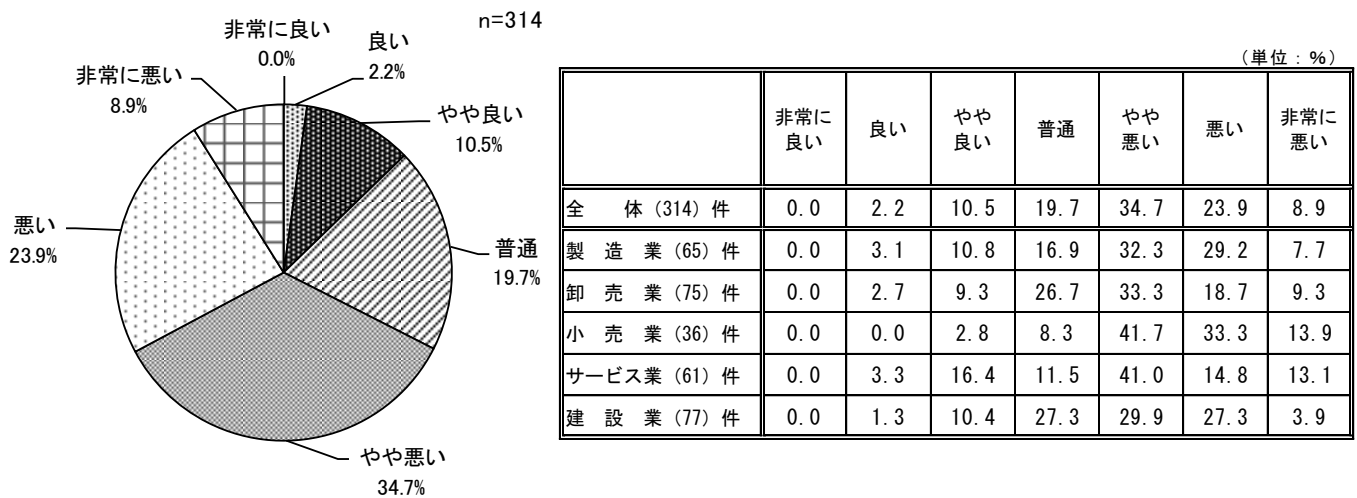
	非常に良い	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い
令和3年度 (320) 件	0.9	0.6	7.5	9.7	35.6	33.4	12.2
令和4年度 (312) 件	0.0	0.3	8.0	13.1	42.3	28.8	7.4

※図表中の構成比は、小数点第2位以下を四捨五入している。
そのため、合計した値が100%にならない場合がある（他設問についても同様）。

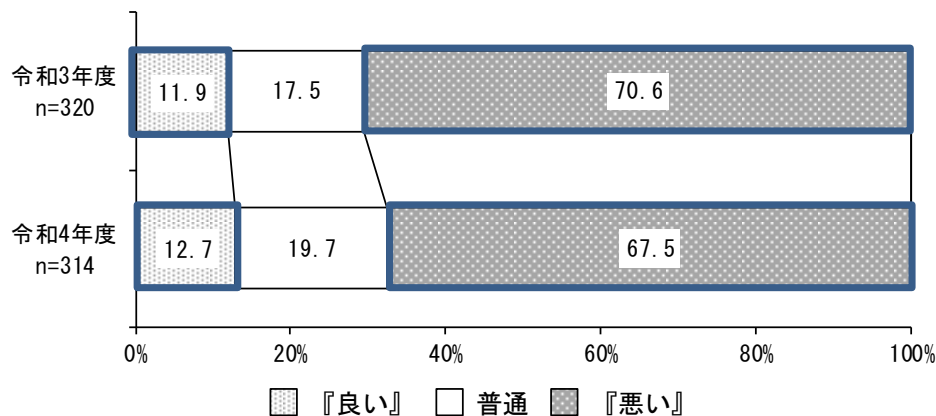
問2. 令和4年度の自社の業況見通し

自社の業況の見通しについては、全体では「やや悪い」が34.7%と最も多く、次いで「悪い」が23.9%、「普通」が19.7%となった。「非常に良い」、「良い」、「やや良い」を合わせた『良い』の割合は12.7%、反対に「非常に悪い」、「悪い」、「やや悪い」を合わせた『悪い』の割合は67.5%となり、『悪い』が『良い』を54.8ポイント上回った。

いずれの業種においても、自社の業況の見通しについて、『悪い』に回答が集中していることを示す結果となった。『良い』と回答した企業の割合が最も多いのはサービス業の19.7%、最も少ないのは小売業の2.8%で、業種間の差は16.9ポイントとなった。また、『悪い』と回答した企業の割合が最も多いのは小売業の88.9%、最も少ないのは建設業の61.1%で、業種間の差は27.8ポイントとなった。



自社の業況見通しの前年同期の結果（令和3年3月）との比較では、全体の『良い』は前年11.9%から12.7%と0.8ポイント増加し、『悪い』は前年70.6%から67.5%と3.1ポイント減少した。



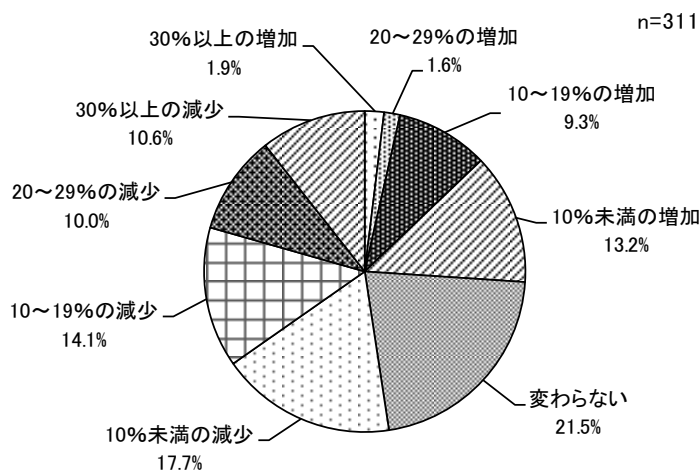
(単位：%)

	非常に良い	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い
令和3年度 (320) 件	0.6	1.3	10.0	17.5	33.1	25.3	12.2
令和4年度 (314) 件	0.0	2.2	10.5	19.7	34.7	23.9	8.9

問3. 令和4年度の自社の売上額の伸び率の見通し

自社の売上額の伸び率の見通しについては、「変わらない」が21.5%と最も多く、次いで「10%未満の減少」が17.7%、「10～19%の減少」が14.1%と続いた。また、『増加』の回答を合計した割合は26.0%、『減少』は52.4%となり、『減少』が『増加』を26.4ポイント上回った。

業種別にみると、『増加』と回答した企業の割合が最も多いのはサービス業が35.0%、最も少ないのは小売業の2.9%で、業種間の差は32.1ポイントとなった。また、『減少』と回答した企業の割合が最も多いのは小売業の80.0%、最も少ないのは卸売業の42.7%で、業種間の差は37.3ポイントとなった。



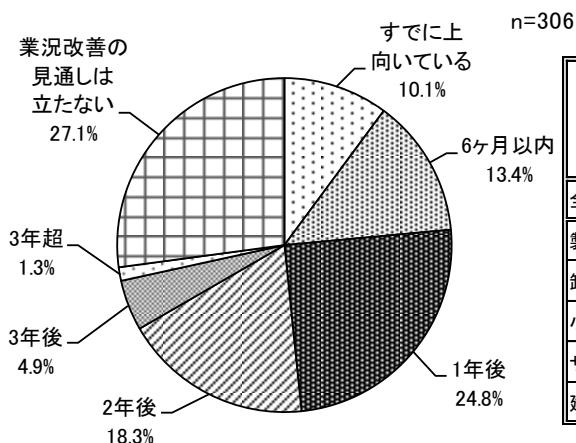
(単位：%)

	30%以上の増加	20～29%の増加	10～19%の増加	10%未満の増加	変わらない	10%未満の減少	10～19%の減少	20～29%の減少	30%以上の減少
全 体 (311) 件	1.9	1.6	9.3	13.2	21.5	17.7	14.1	10.0	10.6
製 造 業 (64) 件	0.0	1.6	14.1	12.5	14.1	25.0	10.9	12.5	9.4
卸 売 業 (75) 件	2.7	0.0	10.7	13.3	30.7	18.7	13.3	6.7	4.0
小 売 業 (35) 件	0.0	0.0	2.9	0.0	17.1	25.7	25.7	8.6	20.0
サービ業 (60) 件	5.0	5.0	13.3	11.7	18.3	10.0	8.3	11.7	16.7
建 設 業 (77) 件	1.3	1.3	3.9	20.8	23.4	13.0	16.9	10.4	9.1

問4. 業況が上向く転換点

業況が上向く転換点については「業況改善の見通しは立たない」が27.1%と割合が最も多く、次いで「1年後」が24.8%、「2年後」が18.3%と続いた。

業種別にみると、製造業、小売業、サービス業では「業況改善の見通しは立たない」と回答した割合が最も高く、卸売業は「1年後」、建設業は「2年後」がそれぞれ最も高くなっている。



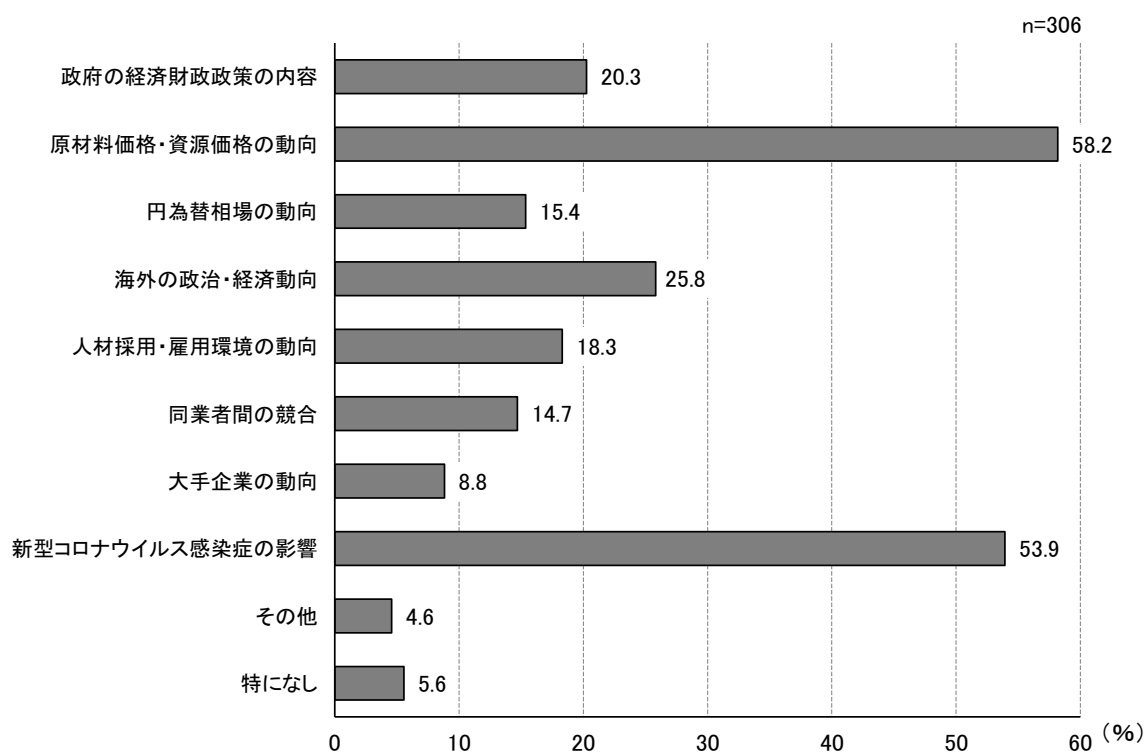
(単位：%)

	すでに上向いている	6ヶ月以内	1年後	2年後	3年後	3年後	業況改善の見通しは立たない
全 体 (306) 件	10.1	13.4	24.8	18.3	4.9	1.3	27.1
製 造 業 (62) 件	14.5	9.7	21.0	6.5	14.5	1.6	32.3
卸 売 業 (74) 件	6.8	21.6	28.4	17.6	4.1	1.4	20.3
小 売 業 (34) 件	0.0	20.6	20.6	20.6	5.9	0.0	32.4
サービ業 (61) 件	14.8	8.2	26.2	18.0	1.6	3.3	27.9
建 設 業 (75) 件	10.7	9.3	25.3	28.0	0.0	0.0	26.7

問5. 経営に影響を及ぼす事象

経営に影響を及ぼす事象については、「原材料価格・資源価格の動向」が58.2%と最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症の影響」53.9%、「海外の政治・経済動向」が25.8%と続いた。

業種別にみると、製造業、卸売業、建設業では「原材料価格・資源価格の動向」が最も高く、小売業とサービス業では「新型コロナウイルス感染症の影響」が最も多くなっており、いずれも6割超となっている。なお、卸売業では「円為替相場の動向」が36.5%、建設業では「人材採用・雇用環境の動向」が32.5%と、他業種に比べ高い割合となっている。コメントにおいては、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシアのウクライナ侵攻による影響や懸念についての意見がみられた。



(単位：%)

	政府の経済財政政策の内容	原材料価格・資源価格の動向	円為替相場の動向	海外の政治・経済動向	人材採用・雇用環境の動向	同業者間の競合	大手企業の動向	新型コロナウイルス感染症の影響	その他	特になし
全 体 (306) 件	20.3	58.2	15.4	25.8	18.3	14.7	8.8	53.9	4.6	5.6
製 造 業 (61) 件	23.0	63.9	13.1	32.8	6.6	13.1	11.5	52.5	6.6	4.9
卸 売 業 (74) 件	16.2	70.3	36.5	32.4	9.5	10.8	5.4	56.8	1.4	4.1
小 売 業 (33) 件	27.3	54.5	12.1	21.2	12.1	9.1	3.0	72.7	0.0	12.1
サービス業 (61) 件	24.6	34.4	6.6	26.2	26.2	16.4	4.9	68.9	9.8	6.6
建 設 業 (77) 件	15.6	62.3	5.2	15.6	32.5	20.8	15.6	32.5	3.9	3.9

中小企業景況調査 比較表・転記表

製造業

品川区 中小企業景況調査 比較表 令和4年1月～3月期

[今期の景況]

		全体	電気機械器具	一般機械器具・ 金型	出版・印刷・ 同関連産業	金属製品・建設 用金属製品・ プレスメッキ	プラスチック製品
業況		-47	-37	-42	-53	-78	-29
売上額		-35	-23	-17	-47	-100	1
受注残		-40	-33	-32	-48	-91	-8
収益		-39	-23	-28	-48	-100	-6
販売価格		-2	15	14	-10	-32	-18
原材料価格		58	72	73	25	30	72
原材料在庫		-1	1	0	-10	-17	10
資金繰り		-31	-25	-19	-45	-80	-15
雇用	残業時間	-12	-22	10	-15	-57	-9
	人手	2	0	-29	31	29	9
同期比	売上額	-25	0	-5	-36	-78	-10
	収益	-32	-33	-14	-21	-89	-30
経営上の 問題点	①売上の停滞・減少	68	78	45	92	86	64
	②工場・機械の狭小・老朽化	13	0	25	15	14	0
	③利幅の縮小	13	33	10	15	0	9
	④同業者間の競争の激化	5	11	5	8	0	0
	⑤人手不足	12	22	20	0	14	0
重点経営 施策	①経費を節減する	50	44	37	50	50	80
	②販路を広げる	48	67	47	64	25	30
	③情報力を強化する	23	11	26	29	13	30
	④新製品・技術を開発する	22	33	42	7	0	10
	⑤人材を確保する	18	33	21	14	25	0
借入の難易度		2	11	-5	7	-13	9

[来期の景況見通し]

業況		-49	-52	-46	-49	-81	-18
売上額		-39	-29	-33	-49	-71	-23
受注残		-37	-32	-32	-38	-60	-34
収益		-46	-49	-40	-51	-71	-24
販売価格		3	5	15	14	-26	-10
原材料価格		68	56	76	65	35	85
原材料在庫		-10	-5	-15	-13	-24	4
資金繰り		-34	-25	-26	-44	-81	-8
雇用	残業時間	-33	-22	-30	-54	-57	-9
	人手	15	13	-14	54	29	18

* 単純D・Iを表示している項目。雇用面、前年同期比、借入難易度

* 企業割合(%)を表示している項目。経営上の問題点、重点経営施策

小 売 業

品川区 中小企業景況調査 比較表 令和4年1月～3月期

[今期の景況]

		全体	飲食料品	飲食店	衣服・呉服・身の回り品
業況		-72	-59	-78	-71
売上額		-50	-74	-58	-29
収益		-57	-74	-58	-45
販売価格		9	-4	11	11
仕入価格		65	79	66	55
在庫		4	13	-5	15
資金繰り		-25	-29	-18	-34
雇用	残業時間	-24	-25	-33	-9
	人手	-24	-25	-33	-9
同期比	売上額	-63	-56	-72	-55
	収益	-62	-67	-72	-40
	販売価格	-8	-22	-6	0
経営上の問題点	①売上の停滞・減少	86	75	82	100
	②商店街の集客力の低下	11	13	6	18
	③利幅の縮小	17	13	12	27
	④取引先の減少	6	13	0	9
	⑤人手不足	28	25	47	0
重点経営施策	①経費を節減する	65	78	53	73
	②品揃えを改善する	38	33	29	55
	③宣伝・広報を強化する	16	11	24	9
	④新しい事業を始める	19	33	18	9
	⑤商店街事業を活性化させる	3	0	0	9
借入の難易度		-16	-11	-22	-10

[来期の景況見通し]

業況		-37	-31	-36	-47
売上額		-4	-25	10	-23
収益		-27	-34	-18	-41
販売価格		7	-11	19	2
仕入価格		62	60	80	36
在庫		0	-1	-6	11
資金繰り		-26	-16	-25	-31
雇用	残業時間	-8	-13	-6	-9
	人手	-27	-25	-39	-9

* 単純D・Iを表示している項目。雇用面、前年同期比、借入難易度

* 企業割合(%)を表示している項目。経営上の問題点、重点経営施策

地域名：品川区

中分類：業種合計

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

項目	調査期										対 前期比	R4 4～6月期				
	R2 4～6月期		R2 7～9月期		R2 10～12月期		R3 1～3月期		R3 4～6月期				R3 7～9月期		R3 10～12月期	
設備投資動向（%）	現在の設備											-13.5				
	実施した											28.6				
	事業用地・建物											5.7				
	機械・設備の新・増設											2.9				
	機械・設備の更改											17.1				
	事務機器											5.7				
	車両											8.6				
	その他											2.9				
	実施しない											71.4				
	経営上の問題点（%）	売上の停滞・減少														
人手不足																
同業者間の競争の激化																
大型店との競争の激化																
輸入製品との競争の激化																
利幅の縮小																
取扱商品の陳腐化																
販売商品の不足																
販売納入先からの値下げ要請																
仕入先からの値上げ要請																
人件費の増加																
人件費以外の経費の増加																
取引先の減少																
商圏人口の減少																
商店街の集客力の低下																
店舗の狭小・老朽化																
代金回収の悪化																
地価の高騰																
駐車場の確保難																
天候の不順																
地場産業の衰退																
大手企業・工場は縮小・撤退																
その他																
問題なし																
重点経営施策（%）		品揃えを改善する														
		経費を節減する														
	宣伝・広報を強化する															
	新しい事業を始める															
	店舗・設備を改装する															
	仕入先を開拓・選別する															
	営業時間を延長する															
	売れ筋商品を取扱う															
	商店街事業を活性化させる															
	機械化を推進する															
	人材を確保する															
	パート化を図る															
	教育訓練を強化する															
	輸入品の取扱いを増やす															
	不動産の有効活用を図る															
	その他															
	特になし															
有効回答事業所数	64		72		58		70		62		63		68		68	

地域名：品川区

中分類：業種合計

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

項目	調査期		R2		R2		R2		R3		R3		R3		R3		R4		対 前期比	R4 4～6月期
	4～6月期	7～9月期	7～9月期	10～12月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	7～9月期	10～12月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期			
業況	良い	6.3	2.1	7.0	8.9	4.1	4.2	8.2	2.7	12.3	4.1	14.5	8.8	18.9	14.7	22.4	12.3		14.7	
	普通	16.5	27.7	15.5	24.1	23.0	25.0	23.3	29.7	16.0	28.8	23.2	31.3	29.7	26.5	31.6	41.1		38.7	
	悪い	77.2	70.2	77.5	67.1	73.0	70.8	68.5	67.6	71.6	67.1	62.3	60.0	51.4	58.8	46.1	46.6		46.7	
	D・I	-70.9	-68.1	-70.4	-58.2	-68.9	-66.7	-60.3	-64.9	-59.3	-63.0	-47.8	-51.3	-32.4	-44.1	-23.7	-34.2		-32.0	
	修正値	-66.8	-65.6	-68.3	-53.4	-69.8	-66.5	-59.5	-65.8	-56.8	-60.6	-45.7	-48.7	-35.4	-44.2	-21.8	-38.2	14.0	-26.4	
	傾向値	-33.5		-47.9		-62.0		-68.2		-66.2		-61.9		-54.5		-45.4				
売上額	増加	8.9	8.5	20.8	21.8	16.2	14.1	11.0	5.4	19.8	12.3	15.9	22.5	31.1	14.7	27.3	16.2		25.0	
	変らず	15.2	19.1	22.2	25.6	24.3	39.4	31.5	33.8	19.8	37.0	26.1	32.5	28.4	36.8	29.9	43.2		35.5	
	減少	75.9	72.3	56.9	52.6	59.5	46.5	57.5	60.8	60.5	50.7	58.0	45.0	40.5	48.5	42.9	40.5		39.5	
	D・I	-67.1	-63.8	-36.1	-30.8	-43.2	-32.4	-46.6	-55.4	-40.7	-38.4	-42.0	-22.5	-9.5	-33.8	-15.6	-24.3		-14.5	
	修正値	-64.4	-62.6	-34.2	-29.3	-47.6	-35.1	-41.6	-52.2	-38.3	-36.6	-38.6	-23.5	-20.7	-35.2	-9.3	-20.6	11.0	-10.2	
	傾向値	-39.2		-46.2		-49.2		-50.4		-45.0		-42.4		-38.9		-30.8				
収益	増加	8.9	10.4	16.7	16.7	16.2	15.5	8.2	8.1	14.8	9.6	15.9	20.0	25.7	11.8	28.6	13.5		23.7	
	変らず	13.9	16.7	22.2	26.9	24.3	36.6	32.9	36.5	23.5	38.4	27.5	33.8	32.4	39.7	28.6	44.6		42.1	
	減少	77.2	72.9	61.1	56.4	59.5	47.9	58.9	55.4	61.7	52.1	56.5	46.3	41.9	48.5	42.9	41.9		34.2	
	D・I	-68.4	-62.5	-44.4	-39.7	-43.2	-32.4	-50.7	-47.3	-46.9	-42.5	-40.6	-26.3	-16.2	-36.8	-14.3	-28.4		-10.5	
	修正値	-64.2	-60.0	-43.2	-39.7	-47.2	-34.5	-48.5	-46.0	-42.3	-38.2	-38.4	-27.6	-26.3	-37.5	-12.3	-28.3	14.0	-4.5	
	傾向値	-36.9		-44.6		-49.2		-52.1		-49.0		-45.8		-42.0		-34.0				
価格動向	料金価格	-22.7	-25.0	-16.9	-21.3	-17.8	-20.0	-12.3	-19.2	-11.3	-4.1	-4.4	-5.1	-2.7	3.0	6.6	-1.4		9.3	
	修正値	-20.8	-23.5	-15.3	-20.0	-18.2	-19.9	-13.2	-18.1	-10.1	-5.1	-4.1	-4.5	-4.3	0.5	4.2	-1.2	9.0	7.0	
	傾向値	-9.0		-13.6		-17.0		-18.0		-16.0		-13.0		-9.6		-5.3				
	材料価格	9.5	10.9	0.0	2.7	4.2	0.0	12.5	4.2	14.3	13.9	16.2	15.8	25.0	17.9	41.9	22.2		39.2	
	修正値	10.6	11.9	2.9	5.1	5.5	2.0	10.3	4.2	13.4	12.3	19.4	16.3	24.3	19.3	35.5	20.4	11.0	33.4	
	傾向値	20.4		14.6		9.8		7.4		7.1		9.8		14.4		20.7				
在庫・資金繰り	資金繰り	-50.6	-41.7	-33.8	-41.8	-32.4	-38.6	-32.9	-32.4	-28.4	-31.5	-21.7	-21.3	-12.2	-20.6	-13.0	-20.3		-18.4	
	修正値	-47.4	-39.0	-33.6	-37.7	-34.0	-38.2	-30.4	-35.3	-24.9	-29.1	-23.3	-18.9	-16.1	-20.8	-9.4	-23.9	7.0	-14.2	
前年同期比	売上額	-62.5		-53.3		-50.0		-43.8		-12.5		-26.9		-11.6		-12.9				
	収益	-68.1		-56.7		-48.4		-45.3		-20.0		-19.7		-13.0		-16.1				
雇用	残業時間	-57.5	-41.7	-26.7	-38.4	-35.5	-22.0	-25.0	-33.9	-28.8	-20.3	-18.8	-17.7	-17.4	-17.4	-12.9	-10.1		-11.5	
	人手	-9.7	-25.0	-16.4	-15.3	-21.3	-21.7	-25.0	-19.7	-27.5	-21.9	-37.7	-26.6	-49.3	-36.2	-41.9	-49.3		-32.8	
借入金	借入難易度	1.4		-9.8		-5.1		-1.6		1.3		1.5		9.1		5.0				
	借入をした(%)	40.6	20.9	32.3	23.9	37.1	16.9	34.4	12.5	31.6	20.7	28.4	8.1	22.1	10.8	35.0	7.7		20.7	
	借入をしない(%)	59.4	79.1	67.7	76.1	62.9	83.1	65.6	87.5	68.4	79.3	71.6	91.9	77.9	89.2	65.0	92.3		79.3	
有効回答事業所数		79		72		74		74		81		69		75		77				

地域名：品川区

中分類：業種合計

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

項目	調査期		R2		R2		R2		R3		R3		R3		R3		R4		対 前期比	R4	
	4～6月期	7～9月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期		4～6月期	
設備投資動向（％）	現在の設備	-6.7	-1.6	-3.9	-9.0	-6.8	-1.3	-10.4	-6.8	-13.6	-7.5	-11.8	-16.1	-11.3	-13.2	-10.8	-14.1				-8.0
	実施した	32.9	32.1	31.1	22.9	35.1	26.0	36.4	36.1	23.5	24.2	26.4	18.4	31.4	26.8	25.0	28.4				25.4
	事業用地・建物	3.5	1.9	4.1	3.6	4.1	4.1	3.0	2.8	3.5	1.5	1.4	3.4	4.3	4.2	5.6	3.0				4.2
	機械・設備の新・増設	10.6	3.8	8.1	7.2	6.8	8.2	9.1	6.9	4.7	6.1	4.2	4.6	5.7	1.4	5.6	4.5				4.2
	機械・設備の更改	3.5	3.8	6.8	4.8	6.8	5.5	6.1	9.7	2.4	4.5	2.8	4.6	5.7	7.0	2.8	6.0				2.8
	事務機器	18.8	18.9	13.5	10.8	24.3	15.1	24.2	23.6	11.8	12.1	13.9	10.3	15.7	11.3	12.5	14.9				12.7
	車両	16.5	15.1	20.3	8.4	18.9	12.3	15.2	18.1	11.8	15.2	16.7	4.6	11.4	14.1	11.1	11.9				9.9
	その他	2.4	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	3.0	1.4	1.2	0.0	1.4	1.1	1.4	1.4	0.0	0.0				1.4
	実施しない	67.1	67.9	68.9	77.1	64.9	74.0	63.6	63.9	76.5	75.8	73.6	81.6	68.6	73.2	75.0	71.6				74.6
	経営上の問題点（％）	売上の停滞・減少	67.0		57.7		52.0		44.8		53.8		47.4		45.9		45.3				
人手不足		31.9		30.8		33.3		35.8		31.9		43.4		35.1		38.7					
大手企業との競争の激化		3.3		3.8		5.3		3.0		1.1		2.6		1.4		1.3					
同業者間の競争の激化		17.6		17.9		10.7		16.4		15.4		11.8		14.9		18.7					
親企業による選別の強化		0.0		5.1		2.7		1.5		1.1		1.3		1.4		5.3					
合理化の不足		4.4		2.6		2.7		6.0		6.6		2.6		4.1		0.0					
利幅の縮小		33.0		29.5		30.7		29.9		38.5		25.0		24.3		33.3					
材料価格の上昇		7.7		10.3		9.3		10.4		17.6		23.7		47.3		54.7					
下請の確保難		19.8		21.8		21.3		25.4		12.1		13.2		25.7		16.0					
駐車場・資材置場の確保難		5.5		5.1		8.0		6.0		6.6		2.6		5.4		2.7					
人件費の増加		13.2		11.5		12.0		17.9		11.0		14.5		12.2		6.7					
人件費以外の経費の増加		9.9		6.4		12.0		9.0		5.5		6.6		9.5		9.3					
技術力の不足		8.8		12.8		18.7		13.4		6.6		9.2		16.2		4.0					
代金回収の悪化		1.1		0.0		1.3		0.0		2.2		0.0		0.0		1.3					
天候の不順		2.2		7.7		1.3		0.0		7.7		7.9		1.4		1.3					
地場産業の衰退		0.0		1.3		0.0		0.0		2.2		2.6		1.4		1.3					
大手企業・工場の縮小・撤退		1.1		2.6		0.0		1.5		0.0		0.0		0.0		2.7					
その他	3.3		5.1		0.0		6.0		1.1		6.6		4.1		1.3						
問題なし	6.6		6.4		8.0		4.5		5.5		5.3		1.4		2.7						
重点経営施策（％）	販路を広げる	28.9		29.5		35.5		40.3		38.5		26.0		33.8		35.5					
	経費を削減する	37.8		48.7		39.5		29.9		38.5		33.8		40.5		38.2					
	情報力を強化する	27.8		29.5		23.7		19.4		25.3		24.7		20.3		25.0					
	新しい工法を導入する	4.4		6.4		5.3		6.0		2.2		5.2		6.8		3.9					
	新しい事業を始める	11.1		3.8		11.8		6.0		7.7		3.9		5.4		6.6					
	技術力を高める	35.6		38.5		35.5		38.8		30.8		23.4		39.2		25.0					
	人材を確保する	38.9		43.6		39.5		46.3		39.6		45.5		47.3		50.0					
	パート化を図る	0.0		1.3		1.3		0.0		1.1		1.3		0.0		0.0					
	教育訓練を強化する	15.6		11.5		10.5		16.4		9.9		10.4		9.5		14.5					
	労働条件を改善する	13.3		12.8		11.8		13.4		8.8		9.1		16.2		7.9					
	不動産の有効活用を図る	2.2		2.6		2.6		4.5		3.3		3.9		1.4		1.3					
その他	0.0		0.0		1.3		1.5		0.0		0.0		0.0		2.6						
特になし	8.9		10.3		10.5		6.0		9.9		9.1		8.1		7.9						
有効回答事業所数	93		79		77		76		93		79		74		77						

調査の概要

1. 調査時期 令和4年1～3月期
2. 調査方法 郵送アンケート調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業	102	74
卸売業	102	76
小売業	102	68
サービス業	102	77
建設業	102	77
合計	510	372